

令和3年度（2021年度）

教育委員会の点検・評価報告書

令和2年度（2020年度）事業対象



高崎市教育委員会

基本方針

本市では、「教育と人づくり」を基本方針の一つに掲げて新しいまちづくりに取り組んでおり、一人ひとりの子どもたちや市民に寄り添う教育行政の充実を図っています。また、子どもたちがいじめのない環境で健やかに、伸びやかに、個性豊かに育つため、学校や地域社会で守り育てる環境を整えることが大事であると考えています。

「教育都市高崎」の創造を目指し、子どもたちの命を守る危機管理の強化、子どもたちや保護者、地域が誇れる学校教育の充実、子育てや親としてのあり方など家庭教育の充実、市民の自己啓発のための生涯教育の充実、人生を豊かにするためのスポーツの推進などに取り組んでいきます。

高崎市教育大綱の施策の視点

1. 生涯学び続け、心豊かにたくましく生きぬく子どもの育成
2. 子どもたちの心身の健康と体力の向上
3. 安全で多機能な教育環境づくりの推進
4. 地域力を育む社会教育の充実
5. 歴史や文化の薫り高い文化環境づくりの推進

教育委員会委員（令和3年9月現在）

職名	氏名
教育長	飯野真幸
教育長職務代理者	清水久美
委員	塚田ひろ子
委員	しげ重 田 誠
委員	じん神 ぐう宮 よし嘉 かず一

目 次

I 令和2年度事業を対象とした高崎市教育委員会の点検・評価について	1
II 教育委員の活動状況	4
III 会議実績	5
IV 点検・評価結果	
＜点検評価シート＞	
生涯学び続け、心豊かにたくましく生きぬく子どもの育成	7
子どもたちの心身の健康と体力の向上	27
安全で多機能な教育環境づくりの推進	36
地域力を育む社会教育の充実	39
歴史や文化の薫り高い文化環境づくりの推進	52
V 点検・評価結果に対する学識経験者の意見	69
VI 点検・評価結果を踏まえた教育委員会の対応・方向性	76

I 令和2年度事業を対象とした高崎市教育委員会の点検・評価について

高崎市教育委員会では、平成13年に21世紀の教育行政を長期的な視野で調査・研究し、生涯にわたる教育のあり方や方向性を「高崎市教育ビジョン」として策定し、さまざまな教育課題に取り組んできました。平成20年4月には、新たな課題の発生や市町村合併により、大きく変化した教育環境に対応するため、「教育ビジョン」の改定を行いました。

その後、本市では「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、市長と教育委員会で開催する「総合教育会議」において、教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱として「高崎市教育大綱」を策定しました。「教育ビジョン」の計画期間は満了しましたが、その趣旨や施策・事業等は「高崎市教育大綱」に基づく施策として承継されています。

教育委員会では、「高崎市教育大綱」に掲げる5つの施策の視点に基づく教育行政と重点施策の推進を図るため、年度ごとに「高崎市教育行政方針」を策定し、当該年度の教育施策の基本的な考え方や方策を決定するとともに、各事業の内容や目標を具体的に示しています。

この点検・評価報告書は、「令和2年度教育行政方針」に掲げた施策・事業等の実施状況の評価検証するものです。対象となる令和2年度事業については、新型コロナウイルス感染拡大を受け、開催中止や施設の休館等、さまざまな影響があったものの、感染症対策を講じたうえで、実施方法の変更や代替策などにより、事業目的に向けた多くの取組を行いました。新型コロナウイルス感染症による影響と各種対応を踏まえたうえで評価検証を行い、今後の事業方針等を検討した結果についてお知らせします。

参 考

○ 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

教育大綱

生涯学び続け、心豊かにたくましく生きぬく子どもの育成

取組

- 1-1-1 教育機関の連携強化
- 1-1-2 学力向上への取組
- 1-1-3 いじめ対策の更なる強化
- 1-1-4 ゆとりある創造的な教育
- 1-1-5 家庭地域との連携強化
- 1-1-6 子どもを伸ばす教師力の向上
- 1-1-7 特別支援教育の充実
- 1-1-8 教育に関する研究調査及び研修、相談活動の充実
- 1-1-9 学校の活性化と一人ひとりの子どもを生かす教育の推進

令和2年度の取組（事業）

- 幼・保・小連携推進事業
- 子どもの学ぶ意欲向上事業
- 児童生徒の学力補充事業
- 英語教育指導事業
- 高崎市学力アップ推進事業
- いじめ防止対策事業
- やるベンチャーウィーク推進事業
- 「気になる子」対策事業
- 読書活動推進事業
- 学校・家庭・地域連携事業
- 学校教育力向上対策事業
- 通級指導教室推進事業
- 教育調査研究・研修事業
- 適応指導教室推進事業

- 1-2-1 確かな学力の確立
- 1-2-2 キャリア教育の推進
- 1-2-3 国際理解教育の推進

- 学力向上推進事業
- キャリア教育推進事業
- 国際教育推進事業

子どもたちの心身の健康と体力の向上

取組

- 2-1 心と体の健康づくり
- 2-2 体力の向上とじょうぶな体づくり
- 2-3 自ら身を守る交通安全教育の推進と安全な通学路の確保
- 2-4 魅力ある学校給食づくり
- 2-5 自然体験活動を通じた豊かな心の育成

令和2年度の取組（事業）

- 児童生徒等健康管理対策事業
- 学校保健充実事業
- 部活動充実事業
- 学校体育充実事業
- 交通教室事業
- 給食充実事業
- 給食運営事業
- 小学生自然体験活動事業
- 「健康教育」啓発事業

安全で多機能な教育環境づくりの推進

取組

- 3-1 安全・安心な学校づくり
- 3-2 多様で弾力的な活動を可能にする学校づくり
- 3-3 地域性を発揮させた学校づくり
- 3-4 環境にやさしい学校づくり

令和2年度の取組（事業）

- 箕輪小学校校舎改築事業
- 学校施設改修事業（小学校、中学校、特別支援学校、幼稚園）
- 学校施設整備事業（高等学校）
- 学校体育施設開放事業

地域力を育む社会教育の充実

取組

- 4-1-1 地域の教育力を活かした事業の推進
- 4-1-2 学社連携・融合による生涯学習の推進
- 4-1-3 人権文化の創造
- 4-1-4 家庭教育の振興
- 4-1-5 学習支援体制の整備
- 4-1-6 平和な社会生活の創造
- 4-1-7 地域の課題に対応した公民館事業の推進
- 4-1-8 社会教育施設の学習環境の整備

令和2年度の取組（事業）

- 地区推進体制整備事業
- 公民館運営事業
- 生涯学習推進事業
- 人権文化創造事業
- 家庭教育支援事業
- 視聴覚教育事業
- 公民館整備事業
- 社会教育施設改修事業
- 市民活動センター管理運営事業

- 4-2-1 図書館資料の充実
- 4-2-2 図書館ネットワークの活用
- 4-2-3 市民生活に役立つ図書館づくり
- 4-2-4 子どもの読書活動の推進
- 4-2-5 関係諸機関との連携

- 図書館管理運営事業
- 市民生活に寄り添う図書館づくり
- 子どもの読書活動の推進
- 関係諸機関との連携事業

歴史や文化の薫り高い文化環境づくりの推進

取組

- 5-1 文化財保存活用地域計画の策定・推進
- 5-2 身近な文化遺産の活用と歴史学習の環境づくり
- 5-3 市民への文化財情報の提供
- 5-4 文化財に親しむための環境づくり
- 5-5 歴史的建造物の保存へ向けた環境整備
- 5-6 地域の文化財の掘り起こしと保護するための環境づくり
- 5-7 民俗資料の収集と展示
- 5-8 市民の積極的参加を促す資料館活動
- 5-9 市民に開かれた資料館の運営
- 5-10 市民の学習活動の支援

令和2年度の取組（事業）

- 文化財保存活用地域計画の策定・推進事業
- 日高遺跡保存整備事業
- 箕輪城跡保存整備事業
- 北谷遺跡保存整備事業
- 山名古墳群保存整備事業
- 「世界の記憶 上野三碑」関連事業
- 文化財保存活用事業
- 埋蔵文化財調査事業
- 多胡碑周辺重要遺跡範囲確認調査事業
- 上野国分尼寺跡範囲確認調査事業
- 文化財調査事業
- 歴史民俗資料館運営事業
- 観音塚考古資料館運営事業
- かみつけの里博物館運営事業
- 多胡碑記念館運営事業
- 吉井郷土資料館運営事業
- 埋蔵文化財センター整備事業

II 教育委員の活動状況

年	月	日	曜日	行事名	場所
2	4	3	金	定例校園長会議	3 1 会議室
		16	木	教育委員会臨時協議会	教育委員会室
		23	木	教育委員会臨時会	教育委員会室
		30	木	教育委員会定例会	教育委員会室
	5	19	火	教育委員会定例会	教育委員会室
	6	25	木	教育委員会定例会	教育委員会室
	7	28	火	教育委員会定例会	教育委員会室
	8	27	木	教育委員会定例会	教育委員会室
				定例校園長会議	3 1 会議室
	9	24	木	教育委員会定例会	教育委員会室
		30	水	定例校園長会議	3 1 会議室
	10	29	木	教育委員会定例会	教育委員会室
	11	4	水	定例校園長会議	3 1 会議室
		19	木	教育委員会定例会	教育委員会室
12	17	木	総合教育会議	庁議室	
		木	箕輪小学校新校舎現地視察	箕輪小学校	
3	1	5	火	定例校園長会議	3 1 会議室
		26	火	教育委員会定例会	教育委員会室
	2	3	水	定例校園長会議	3 1 会議室
		9	火	教育委員会定例会	教育委員会室
	3	5	金	定例校園長会議	3 1 会議室
		18	木	教育委員会定例会	教育委員会室

Ⅲ 会議実績

日 時	議 案
令和2年 4月23日(木) 午後4時～	1 臨時代理の承認について（高崎市立小学校、中学校及び特別支援学校管理運営規則の一部を改正する規則）
4月30日(木) 午後2時～	1 高崎市立学校の教育職員の業務量の適切な管理等に関する規則の制定について
5月19日(火) 午後5時～	1 独立行政法人日本スポーツ振興センター共済掛金に関する規則の一部改正について
6月25日(木) 午後2時～	1 臨時代理の承認について（令和2年度高崎市一般会計補正予算（6月議会提出分）教育費見積書の提出） 2 臨時代理の承認について（令和2年度高崎市一般会計補正予算（6月議会追加提出分）教育費見積書の提出） 3 臨時代理の承認について（高崎市立経済大学附属高等学校令和3年度使用教科用図書の採択） 4 高崎市社会教育委員の委嘱について 5 高崎市公民館運営審議会委員の委嘱について 報告 ・第8回高崎学検定及び第7回高崎学検定解説ブックについて
7月28日(火) 午後2時～	1 高崎市教育機関の適正配置及び設置に関する審議会委員の委嘱について 2 令和3年度使用教科用図書の採択について
8月27日(木) 午後2時～	1 令和2年度高崎市一般会計補正予算（9月議会提出分）教育費見積書の提出について
9月24日(木) 午後2時～	1 令和2年度教育委員会の点検・評価報告書の決定について 2 高崎市文化財保護賞候補者の推せんについて 3 令和2年度末県費負担教職員人事異動方針について 報告 ・令和2年度高崎市公民館研究集会の開催について
10月29日(木) 午後2時～	1 臨時代理の承認について（訴えの提起） 2 高崎市学校運営協議会規則の一部改正について 報告 ・令和2年度優良公民館群馬県教育委員会表彰の受賞について
11月19日(木) 午後2時～	1 高崎市指定文化財の指定及び指定解除について 2 令和2年度高崎市一般会計補正予算（12月議会提出分）教育費見積書の提出について 報告 ・第8回高崎学検定の実施結果について ・令和2年度生涯学習フェスティバルの開催について


<p>令和3年 1月26日(火) 午後2時～</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 高崎市立小学校、中学校及び特別支援学校管理運営規則の一部改正について 2 中学校副読本（令和3年度～令和6年度使用）の採択について 3 高崎市教育委員会規則で定める申請書等の押印の特例に関する規則の制定について 4 令和3年度高崎市一般会計予算教育費見積書の提出について <p>報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度優良PTA文部科学大臣表彰等の受賞について ・令和2年度文部科学大臣表彰「学校保健及び学校安全」等の受賞について ・第20回佐藤太清賞公募美術展等における結果について ・令和2年度小・中・特別支援学校卒業式の日程について
<p>2月9日(火) 午後2時～</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 令和3年度高崎市教育行政方針の設定について 2 令和2年度高崎市一般会計補正予算（3月議会提出分）教育費見積書の提出について 3 県費負担教職員の人事について <p>報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰の受賞について ・高崎市適応指導教室の名称の変更について ・令和2年度高崎市教育センター「春の教育セミナー」の開催について ・令和2年度群馬県教職員表彰の受賞について ・GIGAスクール構想の実現に向けた計画について
<p>3月18日(木) 午後2時～</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 高崎市学校給食センター設置条例施行規則の一部改正について 2 高崎市立高崎経済大学附属高等学校管理規則の一部改正について 3 高崎市立高等学校入学料等徴収条例施行細則の一部改正について 4 職員の人事について <p>報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和元、2年度高崎市社会教育委員会議答申について

IV 点検・評価結果

点検・評価シート

施策の視点	1 生涯学び続け、心豊かにたくましく生きぬく子どもの育成 《義務教育までの教育に関する取組》	担当課
		教職員課 学校教育課 教育センター
取組	1-1-1 教育機関の連携強化 1-1-2 学力向上への取組 1-1-3 いじめ対策の更なる強化 1-1-4 ゆとりある創造的な教育 1-1-5 家庭地域との連携強化 1-1-6 子どもを伸ばす教師力の向上 1-1-7 特別支援教育の充実 1-1-8 教育に関する研究調査及び研修、相談活動の充実 1-1-9 学校の活性化と一人ひとりの子どもを生かす教育の推進	


事業名	幼・保・小連携推進事業（取組 1-1-1）													
事業の目的	公私立の別なく、幼稚園、保育所（園）、認定こども園の連携を深めて幼児教育の充実を図るとともに、幼稚園、保育所（園）、認定こども園と小学校の連携を深め、子どもたちが幼稚園や保育所（園）、認定こども園から小学校への円滑な移行ができるようにする。													
実施状況	<p>全公立・私立幼稚園、保育所（園）、認定こども園、小学校で組織する幼保小連絡協議会では、市内を13ブロックに分けて公開保育・授業や保育・授業研究会を行うブロック別研修会や実技研修会、教育講演会等を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から子どもたちの安全を第一に考え、実施を見合わせた。</p> <p>◆研修会等参加者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成30年度</td> <td>1,200人</td> <td>1,087人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>1,090人</td> <td>1,035人</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>1,090人</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>		年度	目標	実績	平成30年度	1,200人	1,087人	令和元年度	1,090人	1,035人	令和2年度	1,090人	—
年度	目標	実績												
平成30年度	1,200人	1,087人												
令和元年度	1,090人	1,035人												
令和2年度	1,090人	—												
評価検証	令和2年度はコロナ拡大防止の観点からブロック別研修会や実技研修会、教育講演会は実施できなかったが、年度末の小学校新1年生への引継ぎにおいて、子どもの様子を参観し、対面や資料による情報交換をきめ細やかに行うことで、連携を図ることができた。													
今後の方針	幼稚園・保育所（園）・認定こども園・小学校の連携は、今日の教育課題で重要性が大きい。幼稚園・保育所（園）・認定こども園・小学校の職員が、互いに理解し合う機会を持ち、交流を深め、新しい形式での研修会を実施することができるよう、今後も引き続き事業を推進し、幼児教育の充実に努める。													



事業名	子どもの学ぶ意欲向上事業（取組 1-1-2）								
事業の目的	確かな学力の向上を図るために、授業計画を工夫し、子どもの良さを生かして、子どもがわかる授業づくりを充実する。								
実施状況	<p>少人数指導や習熟度別指導、ティームティーチングなど指導形態の工夫を行い、基礎・基本の定着を図るとともに、教科指導助手等を活用しながら、きめ細かな指導の充実に努めた。</p> <p>また、発達段階や各教科等に応じた活用方法を検討し、子どもたちの情報活用能力の育成を推進するために、学識経験者や小中学校の校長等から構成されるGIGAスクール研究会を立ち上げ、授業における1人1台端末の有効活用に向けた協議を行った。</p> <p>◆「授業がわかる」と答えた児童生徒が 8割以上いる学校の割合</p> <table border="1" data-bbox="367 766 826 965"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成30年度</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>99%</td> </tr> </tbody> </table> 	年度	実績	平成30年度	100%	令和元年度	100%	令和2年度	99%
年度	実績								
平成30年度	100%								
令和元年度	100%								
令和2年度	99%								
評価検証	<p>教科指導助手は、研修会で模擬授業を体験することを通して、その後の学習指導で個に応じたきめ細かな指導に役立てることで授業改善が推進されてきた。令和2年度の研修会は、資料配布によるものであったが、各校で感染症対策を講じながら、「主体的・対話的で深い学び」を達成できるような手立てを図ることにより、「授業がわかる」と答えた児童生徒が8割以上いる学校の割合が99%となった。児童生徒が主体的に学ぶための基礎・基本が身に付いているものと考えられる。</p> <p>GIGAスクール研究会においては、令和3年度の取組に向け、授業における1人1台端末の活用方法等の協議を行い、授業の場面ごとや学年ごと、教科ごとの活用事例等をまとめた冊子を作成し、各学校に配布することができた。</p>								
今後の方針	<p>確かな学力の向上は本市学校教育の重点課題である。単元構想、学習過程スタンダードを生かした「主体的・対話的で深い学び」を取り入れた、子どもが主体の授業づくりや1人1台端末の有効活用を推進し、児童生徒の基礎学力と学ぶ意欲の向上に努める。</p> <p>また、学力調査の結果を検証し、個に応じた指導など指導形態の工夫に努めていく。</p>								

事業名	児童生徒の学力補充事業（取組 1-1-2）																																																	
事業の目的	児童生徒の学力を確かなものにするため、授業時間以外にもさまざまな機会をとらえて学力補充に取り組む。																																																	
実施状況	<p>例年、夏季休業を利用して、英語に慣れ親しみ、英語力を向上することを目的に、小学生を対象とした「イングリッシュフェスタ」と中学生を対象とした「イングリッシュサマースクール」、「イングリッシュサマーキャンプ」を実施しているが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止した。</p> <p>2学期中の日曜日を利用して、数学への興味・関心を高めることを目的に、中学生を対象とした「チャレンジ・ザ・日本ジュニア数学オリンピック」講座を8日間開催した。</p> <p>◆イングリッシュフェスタ参加児童数</p> <table border="1" data-bbox="368 685 922 893"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>150 人</td> <td>129 人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>150 人</td> <td>138 人</td> </tr> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>150 人</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆イングリッシュサマースクール参加生徒数</p> <table border="1" data-bbox="368 943 922 1144"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>60 人</td> <td>79 人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>60 人</td> <td>96 人</td> </tr> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>60 人</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆イングリッシュサマーキャンプ参加生徒数</p> <table border="1" data-bbox="368 1193 922 1397"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>30 人</td> <td>30 人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>30 人</td> <td>30 人</td> </tr> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>30 人</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆チャレンジ・ザ・日本ジュニア数学オリンピック講座参加生徒数</p> <table border="1" data-bbox="368 1447 922 1650"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>60 人</td> <td>55 人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>60 人</td> <td>67 人</td> </tr> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>60 人</td> <td>57 人</td> </tr> </tbody> </table>		年度	目標	実績	平成 30 年度	150 人	129 人	令和元年度	150 人	138 人	令和 2 年度	150 人	—	年度	目標	実績	平成 30 年度	60 人	79 人	令和元年度	60 人	96 人	令和 2 年度	60 人	—	年度	目標	実績	平成 30 年度	30 人	30 人	令和元年度	30 人	30 人	令和 2 年度	30 人	—	年度	目標	実績	平成 30 年度	60 人	55 人	令和元年度	60 人	67 人	令和 2 年度	60 人	57 人
年度	目標	実績																																																
平成 30 年度	150 人	129 人																																																
令和元年度	150 人	138 人																																																
令和 2 年度	150 人	—																																																
年度	目標	実績																																																
平成 30 年度	60 人	79 人																																																
令和元年度	60 人	96 人																																																
令和 2 年度	60 人	—																																																
年度	目標	実績																																																
平成 30 年度	30 人	30 人																																																
令和元年度	30 人	30 人																																																
令和 2 年度	30 人	—																																																
年度	目標	実績																																																
平成 30 年度	60 人	55 人																																																
令和元年度	60 人	67 人																																																
令和 2 年度	60 人	57 人																																																
評価検証	「チャレンジ・ザ・日本ジュニア数学オリンピック」講座では、数学専門教師を活用することで、事業内容の充実を図ることができた。事業に参加した生徒からは、数学の学習に対する高い意欲が伺えた。																																																	
今後の方針	教科の学習に興味・関心を持たせ、学力を更に伸ばしていくことは、確かな学力の向上を目指す本市の重点課題である。各事業の内容の充実を図るとともに、事業を更に周知することや魅力ある講師をそろえることで、より多くの児童生徒が目的を持って事業に参加し、児童生徒の学力向上につながるよう努めたい。																																																	

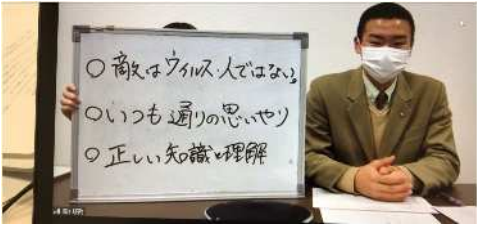


「チャレンジ・ザ・日本ジュニア数学オリンピック」講座の様子

事業名	英語教育指導事業（取組 1-1-2）																								
事業の目的	英語に興味や関心を持ち、英語学習に意欲的に取り組む児童生徒を育成するため、英語指導助手（ALT）を市内全小中学校・市立高等学校に配置し、実践的なコミュニケーション能力の育成を図る。																								
実施状況	<p>年度当初はALTを84校に全校配置していたが、9月に来日予定だったJETプログラムによるALT13人の来日が見送られたため、2学期途中からは、欠員が生じる状況となった。そのような状況において、小学校58校、中学校25校、高等学校1校へ複数校掛け持ち等配置を工夫することにより、全校でALTによる授業が実施できる体制を整え、英語を通したコミュニケーション能力の育成に努めた。</p> <p>◆ALTの配置数</p> <table border="1" data-bbox="367 730 927 929"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成30年度</td> <td>84人</td> <td>84人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>84人</td> <td>84人</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>84人</td> <td>71人</td> </tr> </tbody> </table>  <p>ALTを活用した小学校での授業の様子</p> <p>◆ALTによる延べ授業時間数</p> <table border="1" data-bbox="367 1025 951 1225"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成30年度</td> <td>47,300時間</td> <td>50,062時間</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>50,192時間</td> <td>50,285時間</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>50,062時間</td> <td>43,817時間</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	平成30年度	84人	84人	令和元年度	84人	84人	令和2年度	84人	71人	年度	目標	実績	平成30年度	47,300時間	50,062時間	令和元年度	50,192時間	50,285時間	令和2年度	50,062時間	43,817時間
年度	目標	実績																							
平成30年度	84人	84人																							
令和元年度	84人	84人																							
令和2年度	84人	71人																							
年度	目標	実績																							
平成30年度	47,300時間	50,062時間																							
令和元年度	50,192時間	50,285時間																							
令和2年度	50,062時間	43,817時間																							
評価検証	<p>小学校では、担任等とALTとのチームティーチングを通して、英語や外国の文化・習慣に慣れ親しみ、コミュニケーションへの興味・関心の高揚を図った。</p> <p>中学校では、英語担当教員とALTとのチームティーチングを通して、生徒の実践的コミュニケーション能力や積極的にコミュニケーションをしようとする態度の育成とともに、英語担当教員の指導力の向上を図った。</p> <p>また、コロナ禍においてもALTの研修をオンラインで実施する等の工夫を行うことによってALTの指導力を向上させ、英語教育の充実につなげることができた。</p>																								
今後の方針	<p>英語に興味・関心を持ち、英語の活動や学習に意欲的に取り組み、英語を用いたコミュニケーション能力の基礎を身に付けた児童生徒を育成するために、ALTの研修を重ね、質の向上に努めるとともに、小中高等学校における英語教育の充実を図っていく。また、小学校においては、教育課程特例校として「高崎市小中学校外国語活動・外国語指導計画」に基づき英語教育を推進していく。</p>																								

事業名	高崎市学力アップ推進事業（取組 1-1-2・1-1-5）																													
事業の目的	各学校区において、地域運営委員会による学習会や9地区での中学生休日学習相談ステーションを開催し、保護者や地域、学生など地域の教育力を活用して、放課後や休日を利用した児童生徒の学力向上に向けた取組を推進する。																													
実施状況	<p>地域の実情に応じて事業を実施できるよう地域運営委員会に委託して、学力向上対策の学習会「学力アップ大作戦」を実施しており、市内全ての小中学校区において、地域運営委員会を開催した。地域の教育力を活用し、児童生徒に対し、放課後や土曜日等に学習の時間と場所を提供し、各学校区で感染症対策を徹底しながら、学力アップ大作戦を実施した。地域運営委員会の代表を集めて取組状況の情報交換や課題を話し合うため例年4月と2月に実施している全体会は中止したが、コロナ禍での進捗状況を定期的に調査し、各地域運営委員会の状況について把握に努め、令和3年度の市全体での計画を立てた。</p> <p>中学生休日学習相談ステーションについては、毎週日曜日の午後1時30分～4時30分の間、市内9つの公民館等を利用し、5月から2月末まで市内中学在校生なら誰でも参加できる学習の場を提供している。講師は大学生等のボランティアが務め、数学・英語の教科について学習の相談を行っている。</p> <p>◆地域運営委員会開催回数</p> <table border="1" data-bbox="370 1025 778 1223"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成30年度</td> <td>各校2～4回</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>各校2～4回</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>各校2～4回</td> </tr> </tbody> </table>  <p>学力アップ大作戦</p> <p>◆学力アップ大作戦参加児童生徒数及び延べ開催回数</p> <table border="1" data-bbox="370 1321 970 1469"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th colspan="2">実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>71,074人</td> <td>2,420回</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>33,874人</td> <td>1,356回</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆学力アップ大作戦参加ボランティア人数</p> <table border="1" data-bbox="370 1572 778 1720"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>20,470人</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>8,477人</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆中学生休日学習相談ステーション生徒参加人数</p> <table border="1" data-bbox="370 1809 778 1957"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>440人</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>443人</td> </tr> </tbody> </table>  <p>中学生休日学習相談ステーション</p>	年度	実績	平成30年度	各校2～4回	令和元年度	各校2～4回	令和2年度	各校2～4回	年度	実績		令和元年度	71,074人	2,420回	令和2年度	33,874人	1,356回	年度	実績	令和元年度	20,470人	令和2年度	8,477人	年度	実績	令和元年度	440人	令和2年度	443人
年度	実績																													
平成30年度	各校2～4回																													
令和元年度	各校2～4回																													
令和2年度	各校2～4回																													
年度	実績																													
令和元年度	71,074人	2,420回																												
令和2年度	33,874人	1,356回																												
年度	実績																													
令和元年度	20,470人																													
令和2年度	8,477人																													
年度	実績																													
令和元年度	440人																													
令和2年度	443人																													


<p>評価検証</p>	<p>学力アップ大作戦については、コロナ禍により、地域運営委員会は実施回数を減らし、参加人数を制限しながらも、全ての学校区で実施することができた。児童生徒は、各学校区での学習会に参加することができた。全ての学校区の地域運営委員会の代表を集めての全体会における情報交換は、実施できなかったが、コロナ禍での進捗状況を定期的に調査することで、各地域運営委員会への支援を行うことができた。</p> <p>中学生休日学習相談ステーションは、1回あたりの参加人数は事業開始以降毎年増加し、令和2年度は、コロナ禍で実施回数を減らしたにもかかわらず、安心して利用できるよう感染症対策を徹底した結果、利用中学生が増加した。</p>
<p>今後の方針</p>	<p>学力アップ大作戦は、児童生徒の確かな学力の向上に向けて、地域や家庭との連携を更に進め、地域の教育力を生かして、取組内容の充実を図っていく。</p> <p>中学生休日学習相談ステーションは、ボランティア講師の確保が急務であり、大学生を中心に呼びかけを行っていく。また、より多くの生徒が参加できるよう、各中学校からの工夫した呼びかけを求めていく。</p>

事業名	いじめ防止対策事業（取組 1-1-3）								
事業の目的	児童生徒が安心して生活できる学校づくりを目指して、いじめ防止に焦点を当てた教育活動を推進する。								
実施状況	<p>平成24年度から「いじめ防止プログラム」による取組を小中高一斉に行っており、教育委員会では、以下の取組等を推進してきた。</p> <p>○いじめ防止担当教諭研修会の実施</p> <p>研修会では、学校生活における「いじめの芽」を早期に発見する視点や感性を磨く研修を例年2回実施しているが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響によりオンラインで実施した。</p> <p>○子どもを対象とした「いじめ防止子ども会議」「中学生リーダー研修会」</p> <p>「いじめ防止子ども会議」では、例年各小中学校の代表者による話し合いを通して新たな提言をつくっているが、令和2年度はコロナの影響により中止した。「中学生リーダー研修会」はオンラインで実施し、各中学校のリーダーの意見交換により、「コロナいじめを防ぐための3つのキーワード」を決定した。</p> <p>○いじめ防止缶バッジの作成・配布</p> <p>これらの取組を継続的に実施しながら、子どもたちがいじめの持つ問題性に気づき、いじめをなくすには自分たちはどうしたらよいかを考え、子ども一人ひとりの規範意識の醸成を図ることを通して、いじめの未然防止に結び付けている。</p> <p>◆いじめ認知後1か月以内の解消率</p> <table border="1" data-bbox="370 1167 778 1361"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成30年度</td> <td>84%</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>64%</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>84%</td> </tr> </tbody> </table>  <p>令和2年度中学生リーダー研修会</p>	年度	実績	平成30年度	84%	令和元年度	64%	令和2年度	84%
年度	実績								
平成30年度	84%								
令和元年度	64%								
令和2年度	84%								
評価検証	<p>「いじめ防止担当教諭研修」と「中学生リーダー研修会」のテーマを「コロナいじめ防止」で同一にしたことにより、学校内におけるコロナいじめ防止の「教師と児童生徒の連携」が強化された。具体的には、学校生活の中で起こりうる「コロナいじめ」の視点とその対応が、教師と児童生徒で共有できた。</p> <p>また、「中学生リーダー研修会」で決定した「コロナいじめを防ぐための3つのキーワード」を入れた各校オリジナルのいじめ防止ポスターを作成することにより、市内全校の意識を一つにまとめ高められるようにした。</p>								

<p>今後の方針</p>	<p>いじめ防止の取組を形骸化しないためには「継続」が必要である。令和2年度までの取組で、多くの成果物ができているが、それらが学校生活で継続的に活用できるように、再評価し掘り下げていく必要がある。</p> <p>また、保護者や地域への発信により、学校、家庭、地域が連携・協働したいじめ防止活動を推進していくことも求められる。</p> <p>さらに、インターネット上の表面化しにくい事象や、発達に障害を抱えた子どもが関わる事象、海外から帰国した子どもや外国人の子どもが関わる事象、性同一性障害や性的指向・性自認に関わる事象、災害により被災した子ども又は避難している子どもに対する事象、新型コロナウイルス感染症に関わる事象等のいじめの未然防止及び早期発見・早期解決のために、これらの内容に関する教職員研修をより充実させていきたい。</p>
--------------	---

事業名	やるベンチャーウィーク推進事業（取組 1-1-4）																				
事業の目的	生きる力、豊かな心を育成するため、中学2年生を対象に地域や自然の中での職場体験や福祉ボランティア体験など、生徒の関心に応じた体験活動を実施する。																				
実施状況	<p>例年、市内全ての中学2年生を対象とし、自己の生き方を探求する場として、原則月曜日から金曜日までの連続した5日間の事業所での体験活動を行っている。令和2年度もキャリア教育の考え方を取り入れながら、職場体験や福祉・ボランティア体験、地域の文化体験などの活動を計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、総合的な学習の時間を中心に学校内での調査活動や奉仕活動を行う活動に代えて実施した。</p> <p>◆参加生徒数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成30年度</td> <td>3,215人</td> <td>3,114人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>3,192人</td> <td>3,109人</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>3,252人</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆「役に立った」と答えた生徒の割合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成30年度</td> <td>99%</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>99%</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	平成30年度	3,215人	3,114人	令和元年度	3,192人	3,109人	令和2年度	3,252人	—	年度	実績	平成30年度	99%	令和元年度	99%	令和2年度	—
年度	目標	実績																			
平成30年度	3,215人	3,114人																			
令和元年度	3,192人	3,109人																			
令和2年度	3,252人	—																			
年度	実績																				
平成30年度	99%																				
令和元年度	99%																				
令和2年度	—																				
評価検証	新型コロナウイルス感染症の影響により、各事業所での生徒の受入ができないこと、生徒や事業所、事業所に関わる人々の安全確保の観点から、事業所での活動に代えて外部講師による講演会や校内での奉仕活動の実施、将来の夢や希望を盛り込んだ自分史を作成することなど、各中学校で工夫した取組を行うことができた。																				
今後の方針	コロナ禍において、今後も事業所での受入ができないことが考えられるため、実施期間等の弾力的な対応を行っていく。また、子ども一人ひとりの社会への接続や「働くこと」の現実や必要な資質・能力を子ども自身が意識できるよう事業の内容についても検討していく。																				


事業名	「気になる子」対策事業（取組1-1-4）																				
事業の目的	幼稚園において特別な支援を必要とする「気になる子」の教育環境の充実を図り、きめ細やかな教育に対応するための各園の取組を支援する。																				
実施状況	<p>気になる子対策補助金（私立幼稚園）</p> <p>市内の私立幼稚園に対し、以下のとおり助成した。認定こども園に移行した幼稚園があるため、園数は減少している。</p> <p>◆助成した園数と金額</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>園数</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成30年度</td> <td>15園</td> <td>12,600,000円</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>12園</td> <td>9,960,000円</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>10園</td> <td>8,280,000円</td> </tr> </tbody> </table> <p>学校支援員の配置（公立幼稚園）</p> <p>幼児一人ひとりが楽しく有意義に園生活が送れるよう、支援を必要とする幼児に寄り添い、学級又は学年全体の中で困っている幼児を援助することで各園の実態に応じ、活用されている。</p> <p>◆学校支援員配置数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成30年度</td> <td>12人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>12人</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>13人</td> </tr> </tbody> </table>	年度	園数	金額	平成30年度	15園	12,600,000円	令和元年度	12園	9,960,000円	令和2年度	10園	8,280,000円	年度	実績	平成30年度	12人	令和元年度	12人	令和2年度	13人
年度	園数	金額																			
平成30年度	15園	12,600,000円																			
令和元年度	12園	9,960,000円																			
令和2年度	10園	8,280,000円																			
年度	実績																				
平成30年度	12人																				
令和元年度	12人																				
令和2年度	13人																				
評価検証	<p>私立幼稚園における「気になる子」への対応として、教職員の配置人数の増員や少人数クラス編成等が行われており、保育環境の充実が図られている。</p> <p>公立幼稚園では、学校支援員の活用により、特別な支援を必要とする幼児の園生活上の問題解決と遊びや生活指導の充実が図られた。教員以外の人員配置により、園の実情に応じた必要な形で幼児への支援がなされている。</p>																				
今後の方針	<p>障害の有無にかかわらず、一人ひとりの幼児に応じた支援や指導の必要性及び重要性が増している。今後も引き続き、本事業を実施し、私立幼稚園における保育環境の充実を図っていく。また、公立幼稚園においては、学校支援員の計画的な活用や資質の向上を図っていく。</p>																				


事業名	読書活動推進事業（取組1-1-4）																		
事業の目的	学校図書館の「読書センター」「学習・情報センター」としての機能を充実させるために、全小・中・特別支援学校に学校図書館指導員を配置し、学校での読書活動を支援し、学校図書館を活用した学習活動を推進する。																		
実施状況	<p>平成20年告示の学習指導要領で、学校図書館への読書センター、学習・情報センターとしての機能がこれまで以上に求められたことを受け、23年度から各学校図書館の機能を更に高めるため、「学校図書館指導員」を全校に配置している。</p> <p>「学校図書館指導員」は、校長の指揮監督の下、学校図書館における図書の受入れ及び整理、児童生徒への図書の貸出し及び返却、学校図書館及び準備室の環境整備、読書活動の支援及びレファレンスなどを行っている。</p> <p>◆教員と学校図書館指導員が連携した授業の実施状況（令和2年度）</p> <table border="1" data-bbox="375 801 906 1146"> <thead> <tr> <th>教科名</th> <th>小学校 (全58校)</th> <th>中学校 (全25校)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国語</td> <td>47校</td> <td>18校</td> </tr> <tr> <td>社会</td> <td>20校</td> <td>4校</td> </tr> <tr> <td>理科</td> <td>24校</td> <td>1校</td> </tr> <tr> <td>図工・美術</td> <td>17校</td> <td>5校</td> </tr> <tr> <td>総合</td> <td>40校</td> <td>12校</td> </tr> </tbody> </table>  <p>共通のテーマで集めた書籍の展示</p>	教科名	小学校 (全58校)	中学校 (全25校)	国語	47校	18校	社会	20校	4校	理科	24校	1校	図工・美術	17校	5校	総合	40校	12校
教科名	小学校 (全58校)	中学校 (全25校)																	
国語	47校	18校																	
社会	20校	4校																	
理科	24校	1校																	
図工・美術	17校	5校																	
総合	40校	12校																	
評価検証	<p>各学校においては、共通のテーマで集めた書籍を展示することで、子どもが季節の移ろいを感じられるようにし、社会への興味関心を高める工夫を行っている。また、職員や図書委員によるおすすめ本の紹介を始め、ビブリオバトル、ブックトークなど学校図書館指導員を核として多岐にわたる取組が行われている。</p> <p>上記の表のとおり、教員と学校図書館指導員とが連携した授業も国語科や総合的な学習の時間を中心に行われており、学校図書館を活用した学習活動が多くの学校で見られるようになってきている。</p>																		
今後の方針	平成29年告示の学習指導要領では、「学習・情報センター」としての役割がより一層求められるようになっている。また、複数の教科の学習指導要領で授業における新聞の活用が謳われている。今後も環境整備と情報提供を進めるとともに、学校図書館指導員の研修機会を更に充実させていきたい。																		

事業名	学校・家庭・地域連携事業（取組 1-1-5）								
事業の目的	学校評議員制度を活用し、地域住民や保護者、有識者などの意見を広く取り入れることによって、開かれた学校づくり、魅力ある学校づくりを推進していく。								
実施状況	<p>開かれた学校づくり、魅力ある学校づくりを目的として、地域の方々、保護者、有識者から地域との連携のあり方など広く意見を聞くため、令和2年度は公募による評議員の人選を令和元年度より3校増の33校（園）が実施している。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、例年に比べて多くの学校が開催回数を半分程度にし、感染症対策を講じた上で開催した。</p> <p>◆学校評議員会実施割合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成30年度</td> <td>96%</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>96%</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>51%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績	平成30年度	96%	令和元年度	96%	令和2年度	51%
年度	実績								
平成30年度	96%								
令和元年度	96%								
令和2年度	51%								
評価検証	<p>市内各校で地域や保護者の代表、有識者等からなる学校評議員会を開催し、開かれた学校づくりや魅力ある学校づくりを目指し、広く意見を聞くことができた。</p> <p>コロナ拡大防止の観点から、開催回数は例年の半分程度となったが、議案を精選し、人数を分けて授業を参観するなど、各校で工夫した取組を行うことができた。それにより、例年同様に多くの学校で学校関係者評価にかかわっていただき、学校教育の改善・充実に向けて意見を聞くことができた。</p>								
今後の方針	令和3、4年度で学校評議員制度から学校運営協議会制度への移行が予定されている。既に学校運営協議会制度を導入している3校を始め、今まで以上に地域との連携及び協働した学校運営を進めていく。								

事業名	学校教育力向上対策事業（取組 1-1-6）												
事業の目的	子どもたちの生きる力を育成するため、人権教育講演会、先進校調査研修等を開催し、教職員の質的向上を図る。												
実施状況	<p>令和2年8月に、市内全教職員を対象に人権教育講演会を開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から開催を見合わせた。</p> <p>◆研修参加者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成30年度</td> <td>1,700人</td> <td>1,718人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>1,800人</td> <td>1,750人</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>1,800人</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	平成30年度	1,700人	1,718人	令和元年度	1,800人	1,750人	令和2年度	1,800人	—
年度	目標	実績											
平成30年度	1,700人	1,718人											
令和元年度	1,800人	1,750人											
令和2年度	1,800人	—											
評価検証	市内全教職員を対象とした人権教育講演会は中止となったが、教育センターが実施する人権教育主任を対象とした研修に参加し、校内において教職員の人権感覚を高めるための研修を実施することにより、教職員の質的向上につなげることができた。												
今後の方針	<p>本市の未来を担う子どもたちに生きる力を育成するため、教職員研修を質的に充実させ、教職員の資質向上を図っていく。</p> <p>また、オンラインでの開催やオンラインとのハイブリッドでの開催など、新しい生活様式に合わせた教職員研修の方法について検討していく。</p>												

事業名	通級指導教室推進事業（取組1-1-7）																								
事業の目的	支援を必要とする児童生徒に、通級指導教室において、障害の軽減・改善に向けた指導を実践する。また、保護者や担任への相談活動を充実していく。																								
実施状況	<p>心身に軽度の障害（言語、聴覚、情緒、LD、ADHD、自閉症スペクトラム等の発達障害）がある幼児、児童生徒に対して、障害の程度や特質等を把握し、その軽減と改善を図るための指導・援助を市内6教室（中央教室、中居教室、城山教室、金古教室、堤ヶ岡教室、下室田教室）で実施した。</p> <p>◆改善により退級した児童生徒数 ◆通級児童生徒数</p> <table border="1" data-bbox="373 595 743 792"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成30年度</td> <td>66人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>77人</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>53人</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="852 595 1441 792"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>中学生</th> <th>小学生</th> <th>幼児</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成30年度</td> <td>68人</td> <td>572人</td> <td>51人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>80人</td> <td>544人</td> <td>57人</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>95人</td> <td>549人</td> <td>86人</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績	平成30年度	66人	令和元年度	77人	令和2年度	53人	年度	中学生	小学生	幼児	平成30年度	68人	572人	51人	令和元年度	80人	544人	57人	令和2年度	95人	549人	86人
年度	実績																								
平成30年度	66人																								
令和元年度	77人																								
令和2年度	53人																								
年度	中学生	小学生	幼児																						
平成30年度	68人	572人	51人																						
令和元年度	80人	544人	57人																						
令和2年度	95人	549人	86人																						
評価検証	<p>通級による指導により、子ども一人ひとりの教育的ニーズに応じて、障害の軽減・改善のための指導が行われた。通常の学級における授業においてもこの指導の効果が期待できる。</p> <p>通級による指導を充実させるために、中央教室を中核として様々な研修等が実施された。さらに、各教室でも指導教員のスキルアップを図るための研修や在籍校との情報共有を行い、児童生徒一人ひとりの実態に応じたきめ細かな指導ができるよう努めた。令和2年度の「改善により退級した児童生徒数」が減少しているのは、4月及び5月の休校、感染症対策によりマスクをしての発音指導等をせざるを得なかったことが要因として考えられる。</p> <p>また、令和2年度から新設された堤ヶ岡教室に中学生が通室できるようになり、個別指導を中心とした特別の指導をきめ細かにできるようになっている。</p>																								
今後の方針	<p>通常学級に在籍する心身に軽度の障害（言語・聴覚・情緒・LD・ADHD・自閉症スペクトラム等の発達障害）のある児童生徒で通級の指導を望む数は年々増加している。今後もこの事業を推進することで、特別な支援を必要とする児童生徒の障害の軽減・改善を図っていく。</p> <p>また、通級による指導の効果が通常の学級においても表れるように、通級担当者と学級担任が十分な情報交換をしながら、児童生徒への適切な指導及び必要な支援を行っていく。</p>																								

事業名	教育調査研究・研修事業（取組 1-1-8・1-1-9）																				
事業の目的	学校教育に関連する様々な教育課題に対する調査研究や課題解決に向けた研修を実施し、教職員の資質の向上を図る。																				
実施状況	<p>高崎市教育センター教職員研修基本構想に基づき、法定研修（初任者研修、中堅教諭資質向上研修）のほか、経年研修、職能研修、専門研修等実施予定であった。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、集合した研修が難しい状況になってしまったため、予定していた研修内容を精選して実施した。さらに、オンラインによる研修を積極的に取り入れ、教育センターWebページに研修内容を動画にして掲載し、それを受講者が視聴する方法や、Web会議システムZoomを利用する新たな受講方法により、勤務地に居ながらセンターに集ったときと同等の研修が行えるようにした。</p> <p>◆研修への参加者数</p> <table border="1" data-bbox="368 781 930 978"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>7,300 人</td> <td>6,924 人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>7,500 人</td> <td>6,878 人</td> </tr> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>7,000 人</td> <td>4,263 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆「充実した研修内容である」と答えた受講者数の割合</p> <table border="1" data-bbox="368 1077 778 1274"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>95%</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>96%</td> </tr> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>97%</td> </tr> </tbody> </table>  <p>オンラインによる研修講座受講の様子</p>	年度	目標	実績	平成 30 年度	7,300 人	6,924 人	令和元年度	7,500 人	6,878 人	令和 2 年度	7,000 人	4,263 人	年度	実績	平成 30 年度	95%	令和元年度	96%	令和 2 年度	97%
年度	目標	実績																			
平成 30 年度	7,300 人	6,924 人																			
令和元年度	7,500 人	6,878 人																			
令和 2 年度	7,000 人	4,263 人																			
年度	実績																				
平成 30 年度	95%																				
令和元年度	96%																				
令和 2 年度	97%																				
評価検証	研修の参加者数は目標の60%にとどまったが、オンラインによる研修を取り入れ、勤務地に居ながらセンターに集ったときと同等の研修が行えるようにしたことにより、受講後のアンケートでは研修内容に満足していると答えた受講者が多く、割合も97%となった。																				
今後の方針	<p>研修のニーズを的確に把握し、人材育成研修システムに基づいた質の高い研修講座を実施することで、教職員の資質の向上をより図っていく。</p> <p>さらに、従来のセンター研修（集合・対面型）とオンラインによる研修（研修内容を動画にして受講者が視聴する方法や、Web会議システムZoomを利用する受講方法）を併用することで、受講者にとってより効果的な研修になるようにしていく。</p>																				

事業名	適応指導教室推進事業（取組 1-1-8）								
事業の目的	不登校児童生徒を対象に学習指導や体験活動、定期的な保護者への面談、在籍校との連携等を実施し、学校復帰及び社会的自立を図る。								
実施状況	<p>市内 8 教室において、指導員 19 人とボランティア相談員 6 人で、学校・保護者と連携を図りながら、不登校児童生徒の学校復帰及び社会的自立を目指し、各教室での学習指導、カウンセリングを行った。8 教室合同での行事であるものづくり体験学習、社会科体験学習等の体験活動を実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、合同行事は実施せずに、教室別の行事を行う教室があった。新しい生活様式が求められる中、生活面や学習面等に不安やストレスを感じるケースが増加することが予想されたことから、各教室においては、きめ細やかな健康観察を行い、個に応じた支援を実施した。</p> <p>◆週一日以上学校へ登校できた児童生徒数</p> <table border="1" data-bbox="365 781 754 981"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>36 人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>28 人</td> </tr> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>6 人</td> </tr> </tbody> </table>  <p>教室別行事（だるまの制作）</p>	年度	実績	平成 30 年度	36 人	令和元年度	28 人	令和 2 年度	6 人
年度	実績								
平成 30 年度	36 人								
令和元年度	28 人								
令和 2 年度	6 人								
評価検証	令和 2 年度市内小中学校の不登校児童生徒 626 人のうち、80 人が適応指導教室へ通室し、6 人が学校へ復帰することができた。								
今後の方針	令和 3 年度より名称を教育支援センターと変更し、より一層の周知を図るとともに、子どもの支援にあたる指導員の研修の充実と小・中学校との連携を図り、子どもと保護者の心に寄り添ったスキルの高いきめ細かい支援を行う。								

点検・評価シート

施策の視点	1 生涯学び続け、心豊かにたくましく生きぬく子どもの育成 《高崎経済大学附属高等学校に関する取組》	担当課
		高崎経済大学 附属高等学校
取組	1-2-1 確かな学力の確立 1-2-2 キャリア教育の推進 1-2-3 国際理解教育の推進	

事業名	学力向上推進事業（取組 1-2-1）																		
事業の目的	確かな学力の確立のために、少人数学級による授業やシラバスに沿った授業を行うとともに、発展的・対話的な深い学びを実現するための時間を確保することで、中学校における普通教育の基礎の上に、心身の発達及び進路に応じた高度な普通教育を行う。また、教員の授業指導力向上セミナー派遣等の取組を行い、授業改善による確かな学力の向上を図る。																		
実施状況	<p>全学級が35人を基本としたクラス編成を行うとともに、選択制を取り入れた教育課程を編成し、発展的・補足的な学習を行った。また、シラバスに4回の定期考査の範囲も明記し、校訓にも謳われている「自学自習」の学習の目安として生徒に提示した。</p> <p>芸術コースの音楽系・美術系の生徒には、教員5人のほかに18人の非常勤講師による専門教育を実施するとともに個別指導の充実を図っている。</p> <p>各教科から8名の教員が、予備校の主催する教員授業力向上セミナーに参加した。</p> <p>◆セミナー等への派遣が「役に立った」と答えた教員の割合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆興味・関心を引き出し、学力の向上に役立つ授業が行われていると考える生徒の割合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年度</td> <td>86.7%</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆主体的・協動的な学習を取り入れていると考える生徒の割合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年度</td> <td>91.5%</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆発表する場面で、表現力の育成に努めていると考える生徒の割合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年度</td> <td>85.9%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績	令和元年度	100%	令和2年度	100%	年度	実績	令和2年度	86.7%	年度	実績	令和2年度	91.5%	年度	実績	令和2年度	85.9%
年度	実績																		
令和元年度	100%																		
令和2年度	100%																		
年度	実績																		
令和2年度	86.7%																		
年度	実績																		
令和2年度	91.5%																		
年度	実績																		
令和2年度	85.9%																		

<p>評価検証</p>	<p>シラバスに沿った授業を確実に行うことで主体的な学習態度の育成に結び付けることができた。感染症対策を講じながら、ペア学習等を取り入れた言語活動重視の授業や、実験・実習等を取り入れた体験活動重視の授業への改善を図り、引き続き、基礎的・基本的な知識及び技能の習得と思考力・表現力の向上を図ることができた。</p> <p>芸術コースの個別指導の充実により、生徒一人ひとりの感性を高めることができた。また、オンラインによる教員の授業力向上セミナー参加では、教科指導力が向上し、実践的な技術を身に付けることができた。</p> <p>生徒へのアンケート結果から、今後も、実験・実習等を取り入れた体験活動重視の授業への改善を図り、学習内容が自分の進路や社会生活に役立つことを認識させながら、更に生徒が主体的に学習することに充実感を持てるようにするための取組を推進する必要があると考えられる。</p>
<p>今後の方針</p>	<p>思考力、判断力、表現力はもちろんのこと、学ぶ意欲や自ら学ぶ姿勢等を含めた確かな学力を育成するため、引き続き、各事業の推進を図る。</p>

事業名	キャリア教育推進事業（取組1-2-2）																				
事業の目的	<p>地域、産業界、大学等との連携を図り、体験活動を中心とした学習を積極的に取り入れることで、社会事象に対する興味・関心を高め、知識をもとに思考・判断する力、表現する力を身に付けさせるとともに、人間関係形成能力や自己管理能力、課題解決力、キャリアプランニング力等の基礎的・汎用的能力を身に付けることができるようキャリア教育を推進する。</p>																				
実施状況	<p>オンラインによる企業訪問等を工夫し、職業人を講師とした講演会や体験活動を実施した。また、高崎経済大学との高大連携においても、対面とオンラインによるハイブリッドでの交流を促進し、大学のゼミに参加して大学生と一緒に活動する機会を設けた。</p> <p>◆キャリア教育に係る体験学習の実施回数</p> <table border="1" data-bbox="368 741 963 943"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成30年度</td> <td>44回</td> <td>54回</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>62回</td> <td>67回</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>54回</td> <td>53回</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆体験学習が「役に立った」と答えた生徒の割合</p> <table border="1" data-bbox="368 987 775 1184"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成30年度</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	平成30年度	44回	54回	令和元年度	62回	67回	令和2年度	54回	53回	年度	実績	平成30年度	100%	令和元年度	100%	令和2年度	100%
年度	目標	実績																			
平成30年度	44回	54回																			
令和元年度	62回	67回																			
令和2年度	54回	53回																			
年度	実績																				
平成30年度	100%																				
令和元年度	100%																				
令和2年度	100%																				
評価検証	<p>イスタンブール日本国総領事館とのオンライン交流など、新しい取組を工夫して実施した。高大コラボゼミでは「新型コロナウイルス感染症拡大による経済活動への影響」という時事的な課題に取り組むなど、キャリア教育の充実を図った。また、大学との連携において「大学における学び」に接することで、生徒一人ひとりが将来の目標を明確にすることができた。このように、例年以上に、地域、産業界や大学等と連携した体験活動を中心とした学習により、生徒が自己を見つめるとともに、人間関係形成や自己管理、課題解決、キャリアプランニング等における基礎的・汎用的能力を身に付けることができた。</p>																				
今後の方針	<p>今後もキャリア教育の一層の充実に努めていく。</p>																				

事業名	国際教育推進事業（取組1-2-3）																				
事業の目的	<p>学習指導要領に基づいて達成されるべき英語力の指標として実用英語能力検定（英検）を利用しながら、高校卒業時に必要なレベルの英語力が身に付くようにする。</p> <p>また、海外研修等の海外における異文化体験を積むことで、コミュニケーション能力の育成を図るとともに、同時代人としてのものの考え方や生活習慣、衣食住文化、社会制度や信条等を学び、異国の文化や伝統を尊重できる感覚を育成する。</p>																				
実施状況	<p>全校生徒が英検を受検する機会を設けた。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響により、試験日程延長や試験会場調整（群馬県外）等で生徒が複数回受験しにくい状況が生じた。</p> <p>◆英検準2級以上の取得者数(延べ人数)</p> <table border="1" data-bbox="367 712 932 911"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成30年度</td> <td>800人</td> <td>849人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>880人</td> <td>803人</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>880人</td> <td>792人</td> </tr> </tbody> </table> <p>海外派遣事業については、コロナの影響から対面交流（当初計画では、台湾、ベトナム及び米国）を実施できなかったが、その代替としてオンライン国際交流プログラム（カナダ）を企画した。その結果、カナダ在住の現地大学生と生徒がオンライン会議システムを活用した交流を行った。</p> <p>◆海外派遣事業に参加したことが「役に立った」と答えた生徒の割合</p> <table border="1" data-bbox="367 1149 756 1348"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成30年度</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	平成30年度	800人	849人	令和元年度	880人	803人	令和2年度	880人	792人	年度	実績	平成30年度	100%	令和元年度	100%	令和2年度	100%
年度	目標	実績																			
平成30年度	800人	849人																			
令和元年度	880人	803人																			
令和2年度	880人	792人																			
年度	実績																				
平成30年度	100%																				
令和元年度	100%																				
令和2年度	100%																				
評価検証	<p>全ての生徒が英検を受検し、より上位の資格取得に取り組むことができた。</p> <p>オンライン国際交流プログラム（カナダ）では、カナダ人講師及び大学生10人と生徒42人がインターネット会議システムを活用し、自己紹介や地元高崎の紹介などを英語で行うことを通して、異なる文化や価値観、社会制度への理解を深めることができた。</p>																				
今後の方針	<p>国際化する社会に対応できる生徒の育成を目指して、海外交流に参加しようとする生徒を増やすとともに、海外派遣で得られた成果をほかの生徒に広げようとする生徒を増やし、継続して国際教育の充実を図る。</p> <p>引き続き、大学の推薦入試等で合否判定の材料の1つとなる英検2級の取得を目指そうとする意欲の向上に努める。</p>																				

点検・評価シート

施策の視点	2 子どもたちの心身の健康と体力の向上	担当課
		健康教育課
取組	2-1 心と体の健康づくり 2-2 体力の向上とじょうぶな体づくり 2-3 自ら身を守る交通安全教育の推進と安全な通学路の確保 2-4 魅力ある学校給食づくり 2-5 自然体験活動を通じた豊かな心の育成	

事業名	児童生徒等健康管理対策事業（取組2-1）											
事業の目的	児童生徒等の健康の保持増進を図るため、疾病・異常を早期に発見し保健教育を実施し治療を促進する。健康診断をすることにより、自己の健康課題に気づき、自ら考え、行動し、心身ともに健康で明るい生活を送れるようにする。											
実施状況	<p>幼児、児童、生徒及び教職員の健康管理の一環として、学校医等による健康診断及び専門機関による検診（貧血検査・尿検査・心臓検診・総コレステロール検査等）を実施し、その結果を受けて保健上必要な指導助言（治療勧告）や保健指導を行った。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症に伴う定期健康診断の大幅な日程変更もあり、永久歯う歯及び歯肉炎等治療完了者率についての統計調査は実施しなかった。</p> <p>◆永久歯う歯及び歯肉炎等治療完了者率</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">平成30年度</td> <td>小学校 96.6%</td> </tr> <tr> <td>中学校 91.4%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">令和元年度</td> <td>小学校 96.6%</td> </tr> <tr> <td>中学校 91.4%</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>統計せず</td> </tr> </tbody> </table>		年度	実績	平成30年度	小学校 96.6%	中学校 91.4%	令和元年度	小学校 96.6%	中学校 91.4%	令和2年度	統計せず
年度	実績											
平成30年度	小学校 96.6%											
	中学校 91.4%											
令和元年度	小学校 96.6%											
	中学校 91.4%											
令和2年度	統計せず											
評価検証	<p>各学校園においては、健康診断や検査の結果を受け、事後の保健指導を行っている。また、学校医等の協力を得て、行事前に臨時の健康診断や経過観察歯科健康診断を実施するなどの健康管理対策をとっている。</p> <p>令和2年度は、5月末までの休校と、それに伴う定期健康診断の大幅な日程変更となったが、12月末までに全ての健康診断が終了した。感染症対策を講じながら、学校医等の協力を得て実施することができた。</p> <p>小学1年生を対象とした巡回歯科指導についても、例年1学期中の実施であったが、令和2年度は12月末まで延長し、全ての学校で実施することができた。</p> <p>また、学校保健統計については、健診の日程変更等により、定期健康診断（科別）受検率、体格の年次推移等は割愛となったが、9月30日までに実施された健診結果について、集計することができた。</p>											
今後の方針	学校等から働きかけをすることにより、保護者の協力を得て対象者全員の受検を実現する。また、学校医等と連携し、健康診断の結果を児童生徒等の健康管理や保健教育に活用し、児童生徒等の心身ともに健康な生活の実現を目指す。											

事業名	学校保健充実事業（取組 2-1）																								
事業の目的	助産師による「命の大切さ」出前授業や専門家による性教育講演会、薬物乱用防止講演会、「エイズデー i n たかさき」への参加を実施し、豊かな人間性を育み、生涯を通じて健康な生活を営む児童生徒の育成を図る。																								
実施状況	<p>豊かな心と健康な体づくりの一環として、健康教育の今日的課題に対応するため、専門家の講演や体験活動により、正しい知識を身に付け、自己の日常の生活に生かせるよう、学校において保健計画に位置づけられた継続的な実施を目指している。助産師会、ボランティア団体、学校医等の協力により、毎年多くの学校で実施できている。</p> <p>◆助産師による授業・性教育講演会実施校数</p> <table border="1" data-bbox="363 658 1114 846"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>50 校</td> <td>55 校</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>50 校</td> <td>53 校</td> </tr> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>55 校</td> <td>43 校</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆薬物乱用防止講演会実施校数</p> <table border="1" data-bbox="363 936 1114 1124"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>65 校</td> <td>57 校</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>65 校</td> <td>55 校</td> </tr> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>65 校</td> <td>41 校</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	平成 30 年度	50 校	55 校	令和元年度	50 校	53 校	令和 2 年度	55 校	43 校	年度	目標	実績	平成 30 年度	65 校	57 校	令和元年度	65 校	55 校	令和 2 年度	65 校	41 校
年度	目標	実績																							
平成 30 年度	50 校	55 校																							
令和元年度	50 校	53 校																							
令和 2 年度	55 校	43 校																							
年度	目標	実績																							
平成 30 年度	65 校	57 校																							
令和元年度	65 校	55 校																							
令和 2 年度	65 校	41 校																							
評価検証	<p>実施を希望する学校が増加している講師派遣事業については、予算維持とともに、実績の拡大に努めている。</p> <p>助産師でつくる『とらうべの会』による「命の大切さ」出前授業については、毎年継続して実施希望の学校が多いため、とらうべの会の先生方と日程を調整し、毎年多くの学校で実施できている。</p> <p>令和 2 年度については、一堂に会する講演会は中止にする学校も多かったが、養護教諭や学校職員による授業や、DVDを活用した授業など、各校で工夫して実施した。</p>																								
今後の方針	<p>性教育、薬物乱用防止教育は、今日的かつ緊急的な課題であるため、受講学校数を増加できるよう多面的に働きかけていく。特に薬物乱用等の低年齢化に伴い、正しい知識と適切な判断ができるよう、小学校の薬物乱用防止教室の拡充を図り、保健所やライオンズクラブ等の関係機関と連携し、学校への支援を行いたい。</p> <p>また、予算等の関係から、隔年で実施する学校も多いが、より大きな成果を得られるように継続的な実施を働きかけていく。</p>																								


事業名	部活動充実事業（取組 2-2）																																	
事業の目的	高崎市立中学校に部活動指導員や外部指導者を配置し、部活動の充実及び円滑な運営を図るとともに、部活動指導を行う教員の支援を行う。																																	
実施状況	<p>高崎市内の各中学校 25 校に部活動指導員を配置することや各中学校のニーズに応じた外部指導者の派遣により、部活動の質的向上や教職員の負担軽減を図るとともに、「高崎市の部活動の運営について」の徹底を図り、各中学校の実情に合わせた望ましい部活動の推進に努めた。</p> <p>◆部活動指導員配置人数</p> <table border="1" data-bbox="363 577 1085 763"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>25 人</td> <td>25 人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>75 人</td> <td>59 人</td> </tr> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>75 人</td> <td>60 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆運動部への外部指導協力者派遣事業</p> <table border="1" data-bbox="363 857 1085 1066"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>70 人</td> <td>57 人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>65 人</td> <td>45 人</td> </tr> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>65 人</td> <td>41 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆教職員の負担軽減につながったと答える学校の割合</p> <table border="1" data-bbox="363 1173 1085 1317"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>100%</td> <td>88%</td> </tr> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>100%</td> <td>96%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	平成 30 年度	25 人	25 人	令和元年度	75 人	59 人	令和 2 年度	75 人	60 人	年度	目標	実績	平成 30 年度	70 人	57 人	令和元年度	65 人	45 人	令和 2 年度	65 人	41 人	年度	目標	実績	令和元年度	100%	88%	令和 2 年度	100%	96%
年度	目標	実績																																
平成 30 年度	25 人	25 人																																
令和元年度	75 人	59 人																																
令和 2 年度	75 人	60 人																																
年度	目標	実績																																
平成 30 年度	70 人	57 人																																
令和元年度	65 人	45 人																																
令和 2 年度	65 人	41 人																																
年度	目標	実績																																
令和元年度	100%	88%																																
令和 2 年度	100%	96%																																
評価検証	部活動指導員の配置や運動部活動における外部指導者派遣により、教職員の部活動に係る心理的な負担や勤務時間の軽減を図ることができた。また、各種目の専門性を生かした指導が行われたことにより、更なる技能の向上やけがの防止に努めることができた。																																	
今後の方針	<p>中学校教職員の部活動指導への負担軽減を図るため、今後も本事業を継続し、更なる部活動の質的向上と教職員の負担軽減に努める。そのためにも、持続可能な部活動運営ができるよう、地域人材の発掘を推進していく。</p> <p>また、学校教育の一環として教育課程との関連が図られるよう研修会等の実施により、部活動指導員や外部指導者の指導力の向上に努め、望ましい部活動の推進を図っていく。</p>																																	

事業名	学校体育充実事業（取組2-2）																				
事業の目的	生涯を通して運動に親しむ心を養うとともに、各種競技大会の開催や新体力テストの実施、中体連等への支援を行い、児童生徒の体力の向上に努める。																				
実施状況	<p>生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成するために、各種運動の基本的な動きや技能を明確にし、自己の課題を発見し、その解決に向け主体的に運動に親しむことができる授業づくりや、休校期間中における家庭でできる運動の動画配信を行った。また、自らの体力に関心を持ち、進んで体力向上に取り組む児童生徒の育成に努めた。新体力テストは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため任意での実施となり、実施率が低下した。</p> <p>◆新体力テストの実施者数（小学5・6年生及び中学1～3年生）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成30年度</td> <td>16,033人【実施率99%】</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>16,104人【実施率99%】</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>5,673人【実施率35%】</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆全国体力・運動能力、運動習慣等調査において「運動が好きである」「どちらかというと思う」と回答した児童の割合（小学5年生）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成30年度</td> <td>93%</td> <td>90.5%</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>93%</td> <td>90.9%</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>93%</td> <td>全国調査中止</td> </tr> </tbody> </table> <p>小学生を対象に行った体操演技会を通して、器械運動の楽しさや喜びを味わい、進んで運動に取り組む児童の育成に努めた。</p> <p>中体連新人大会や3年生を対象にした交流大会における運営への協力や、群馬県大会における選手の派遣に向けた支援に努めた。</p>	年度	実績	平成30年度	16,033人【実施率99%】	令和元年度	16,104人【実施率99%】	令和2年度	5,673人【実施率35%】	年度	目標	実績	平成30年度	93%	90.5%	令和元年度	93%	90.9%	令和2年度	93%	全国調査中止
年度	実績																				
平成30年度	16,033人【実施率99%】																				
令和元年度	16,104人【実施率99%】																				
令和2年度	5,673人【実施率35%】																				
年度	目標	実績																			
平成30年度	93%	90.5%																			
令和元年度	93%	90.9%																			
令和2年度	93%	全国調査中止																			
評価検証	<p>休校期間中の児童生徒向けに動画配信を行うことで、登校できない期間においても運動の楽しさや心地良さを家庭で味わうことができるよう工夫することができた。</p> <p>体育の授業づくりでは、その種目の運動で得られる楽しさや喜びを得られるよう工夫した授業が行われている。児童生徒は、自己の課題を明確にすることで、課題解決に必要な基本的技能や知識を身に付け、身に付けた力をもとに自己の課題に主体的に取り組む姿が見られた。</p> <p>小学生の体操演技会では、参加対象を1年生から6年生の希望者へ拡大し、器械運動に親しむ児童の育成を図ることができた。</p> <p>中体連の大会運営や選手の派遣等については、各学校や中体連のニーズに対応した支援を行うことができた。</p>																				
今後の方針	<p>全児童生徒が生涯にわたってスポーツに親しむことができるよう、資料提供やICTを活用した動画配信を充実させることで、更なる体育の授業改善を図る。</p> <p>また、新体力テストによる学校課題を明確にし、全校体制による計画的・組織的な取組を推進するよう努める。</p>																				

事業名	交通教室事業（取組 2-3）																																				
事業の目的	交通法規や自転車実習による交通教室を開催し、自分の命は自分で守る交通安全教育を推進する。																																				
実施状況	<p>和田橋交通公園では、小学3年生を対象に、1学期は各校へ職員が出向き、2学期は和田橋交通公園に児童が来て「交通安全教室」を実施した。「交通事故ゼロ」を目指し、自転車の乗り方や交通ルールを中心に学習している。</p> <p>また、夏休みを利用して、自転車に乗れない小学1年生を対象に「親子自転車教室」を実施した。</p> <p>◆自転車事故発生率/交通事故総数（小学生）</p> <table border="1" data-bbox="367 622 1093 808"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成30年度</td> <td>30% / 45件</td> <td>44% / 47件</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>30% / 45件</td> <td>41% / 34件</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>30% / 45件</td> <td>41% / 44件</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆交通安全教室小学3年生受講者数（参加率）</p> <table border="1" data-bbox="367 898 1121 1084"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成30年度</td> <td>3,227人</td> <td>3,200人(99.20%)</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>3,097人</td> <td>3,078人(99.40%)</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>3,037人</td> <td>1,745人(57.46%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆親子自転車教室受講者数</p> <table border="1" data-bbox="367 1173 1093 1359"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成30年度</td> <td>40組</td> <td>41組</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>40組</td> <td>35組</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>40組</td> <td>26組</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	平成30年度	30% / 45件	44% / 47件	令和元年度	30% / 45件	41% / 34件	令和2年度	30% / 45件	41% / 44件	年度	目標	実績	平成30年度	3,227人	3,200人(99.20%)	令和元年度	3,097人	3,078人(99.40%)	令和2年度	3,037人	1,745人(57.46%)	年度	目標	実績	平成30年度	40組	41組	令和元年度	40組	35組	令和2年度	40組	26組
年度	目標	実績																																			
平成30年度	30% / 45件	44% / 47件																																			
令和元年度	30% / 45件	41% / 34件																																			
令和2年度	30% / 45件	41% / 44件																																			
年度	目標	実績																																			
平成30年度	3,227人	3,200人(99.20%)																																			
令和元年度	3,097人	3,078人(99.40%)																																			
令和2年度	3,037人	1,745人(57.46%)																																			
年度	目標	実績																																			
平成30年度	40組	41組																																			
令和元年度	40組	35組																																			
令和2年度	40組	26組																																			
評価検証	<p>小学3年生の交通安全教室では、和田橋交通公園内にて交通ルールの学習や自転車を正しく乗るための知識や技能の習得に向けた実技指導の充実に努めた。交通公園内での教室開催ができなかった1学期に実施予定の学校については、交通公園職員が自転車や信号機を各校へ持参し、校庭や体育館にて模擬交差点を作成して交通安全教室を実施し、DVD視聴による自転車の安全な乗り方の学習をすることで、交通安全教育の推進を図ることができた。</p> <p>また、親子自転車教室では、自転車に乗れるよう指導するだけでなく、交通ルールやマナーなどの交通安全指導も行った。</p>																																				
今後の方針	<p>小学生の自転車事故の主な原因は、一時停止不履行や前方不注意である。自分の命は自分自身で守ることや各地域の実情に応じた実効性のある交通安全教育が実施できるよう、各校への情報提供や支援に努めていく。また、群馬県交通安全条例の改正に伴い、自転車保険の義務化やヘルメット着用の努力義務化について周知を行い、家庭と連携し推進していく。</p>																																				

事業名	給食充実事業（取組 2-4）																								
事業の目的	学校給食において、地場農産物の積極的な活用や郷土料理の導入、栄養教諭・栄養士による食指導を実施することにより、児童生徒の健やかな成長と望ましい食習慣を形成していく。																								
実施状況	<p>新鮮で安全な食材の提供が可能となるだけでなく、地元の農産物生産者への支援、児童生徒の本市の農産物・農業への関心を高めることにも繋がることから、学校給食に地場農産物を積極的に使用している。また、児童生徒が食の重要性を知り、食についての興味・関心が高められるよう、栄養教諭・栄養士が給食時の教室訪問、給食放送、一口メモ等を活用し、献立や食材などに関する説明や食指導を行っている。</p> <p>◆給食における地場農産物使用率</p> <table border="1" data-bbox="371 703 1008 891"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>50%</td> <td>47.4%</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>50%</td> <td>47.4%</td> </tr> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>50%</td> <td>38.8%</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆栄養教諭・栄養士一人当たりの1ヶ月の給食時間食指導回数</p> <table border="1" data-bbox="371 981 1008 1169"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>18 回</td> <td>11 回</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>15 回</td> <td>10 回</td> </tr> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>15 回</td> <td>6 回</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	平成 30 年度	50%	47.4%	令和元年度	50%	47.4%	令和 2 年度	50%	38.8%	年度	目標	実績	平成 30 年度	18 回	11 回	令和元年度	15 回	10 回	令和 2 年度	15 回	6 回
年度	目標	実績																							
平成 30 年度	50%	47.4%																							
令和元年度	50%	47.4%																							
令和 2 年度	50%	38.8%																							
年度	目標	実績																							
平成 30 年度	18 回	11 回																							
令和元年度	15 回	10 回																							
令和 2 年度	15 回	6 回																							
評価検証	給食における地場農産物使用率は、4、5月の臨時休校や、農産物の生育の遅れ、出荷量の減少等により低下したが、引き続き目標とする50%に到達するよう努めていきたい。また、栄養教諭・栄養士の給食時の食指導は、コロナ禍のため教室訪問だけでなく、給食放送、一口メモ、掲示資料、給食便り等を活用し、食に関する指導の充実を図った。																								
今後の方針	<p>地場農産物の使用率は、気候の影響による農作物の生育・流通状況等、外的な要因の影響を受けることもあるが、生産者や関係機関と連携を図り、生育状況、生産量等の情報収集を行い、より多くの地場農産物が使用できるよう取組を進めていく。</p> <p>栄養教諭・栄養士の食に関する指導は、教室訪問と併せて、給食放送、一口メモ、掲示資料、給食だより等を有効活用できるよう各学校への働きかけを行う。</p>																								



事業名	給食運営事業（取組 2-4）																	
事業の目的	安全・安心な給食を提供するため、調理器具等の更新を実施するとともに、食育の視点から給食残渣の削減に取り組む。																	
実施状況	<p>調理器具等の状況を確認し、必要性の高いものから優先的に更新を行った。 各学校園における残渣から作られた堆肥量をもとに、年間の残渣を推定して一人一日分の残渣を算出した。</p> <p>◆児童生徒一日あたりの給食残渣</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>令和 2 年度目標</th> <th>令和 2 年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>幼稚園</td> <td>56 g</td> <td>41 g</td> </tr> <tr> <td>小学校</td> <td>43 g</td> <td>38 g</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>49 g</td> <td>47 g</td> </tr> <tr> <td>特別支援学校</td> <td>33 g</td> <td>45 g</td> </tr> </tbody> </table>			対象	令和 2 年度目標	令和 2 年度実績	幼稚園	56 g	41 g	小学校	43 g	38 g	中学校	49 g	47 g	特別支援学校	33 g	45 g
対象	令和 2 年度目標	令和 2 年度実績																
幼稚園	56 g	41 g																
小学校	43 g	38 g																
中学校	49 g	47 g																
特別支援学校	33 g	45 g																
評価検証	幼稚園、小学校及び中学校の残渣は目標値より少なかった一方で、特別支援学校では目標値より多かった。特別支援学校については、元年度の実績とでは大差なく献立の内容により残渣の量も変わってくる。																	
今後の方針	安全・安心な給食を提供するために、引き続き、古い調理器具等の更新を行っていく。また、食育の面からも、給食残渣を更に削減できるよう努めていく。																	

事業名	小学生自然体験活動事業（取組 2-5）									
事業の目的	<p>榛名湖畔の素晴らしい自然環境を活用し、登山や野外炊飯などの自然体験活動を実施し、小学生の生きる力、豊かな心を育成する。</p>									
実施状況	<p>榛名湖畔にある「榛名林間学校榛名湖荘」での自然体験学習を市内小学校 55 校が実施した。コロナ禍のため、1 学期に予定していた学校は全て延期して、9 月から 11 月までの期間に日帰りでの実施とした。また入校は単独校を基本とし、大規模校については 2 日間に分散して入校するなど、十分な感染症対策を講じたうえで実施した。活動内容として、桜やくり等の木の枝を使ってスプーンを作るクラフト活動、火おこし体験活動のほか、感染症対策を考慮して榛名湖畔を一周する「榛名湖散策」を新たにプログラムに加えたことで、今まで以上に榛名湖周辺の豊かな自然に触れることができた。</p> <p>◆林間学校参加児童数</p> <table border="1" data-bbox="370 757 911 898"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>校数</th> <th>児童数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>58 校</td> <td>3,441 人</td> </tr> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>55 校</td> <td>2,988 人</td> </tr> </tbody> </table>  <p style="text-align: center;">榛名湖散策</p>	年度	校数	児童数	令和元年度	58 校	3,441 人	令和 2 年度	55 校	2,988 人
年度	校数	児童数								
令和元年度	58 校	3,441 人								
令和 2 年度	55 校	2,988 人								
評価検証	<p>本事業では、高崎市内の 55 小学校の 5 年生が榛名湖畔での自然体験活動を通して、榛名地域の素晴らしい自然や文化財などに触れ、子どもたちに生きる力と豊かな心を育むことができた。また、新たに「榛名湖散策」をプログラムに加えたことで、学校の実情に応じたプログラムを選択することができるようになり、学校の自主性や独自性を尊重することができた。</p>									
今後の方針	<p>榛名湖畔や林間学校の屋外施設等を生かしたプログラムの充実を図り、児童が榛名地域の自然の素晴らしさを更に感じる事ができる事業としていく。</p>									

事業名	「健康教育」啓発事業（取組 2-1・2-2・2-3・2-4）
事業の目的	「21世紀を担う元気なたかさきっ子」を育てるため、本市における健康教育（学校保健・学校体育・学校給食）の取組を紹介する健康教育フェアを開催し、学校園における実践の様子について、パネル展示等を通して広報することにより、学校・家庭・地域の連携の必要性を市民とともに考えていく。
実施状況	<p>「健康教育フェア」は、健康教育に関する学校の実践や、学校給食、学校医・学校歯科医・学校薬剤師による活動のパネル展示等を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催を中止した。</p> <p>同時に開催している「エイズデー in たかさき」については、縮小開催とし、各校で工夫した取組を行った。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">    </div> <p style="text-align: center;">「エイズデー in たかさき」 各校の取組の様子</p>
評価検証	「健康教育フェア」と、同時開催している「エイズデー in たかさき」のエイズパネル街角美術館、街頭キャンペーンは中止となったが、エイズデーの取組は広報紙「AIDS」の作成のほか、各校でレッドリボンやエイズパネルを作成し校内での啓発活動を行うことで、縮小してではあったが工夫して実施することができた。
今後の方針	健康教育は、継続的な取組が大切であることから、幼稚園から高等学校まで幅広く働きかけていく。また、今後も市庁舎1階ロビーなど、多くの市民が訪れやすい会場で開催し、パネル等の展示物の充実を図るとともに、多くの市民に来場してもらい、市民の健康への関心を高められるよう工夫していく。

点検・評価シート

施策の視点	3 安全で多機能な教育環境づくりの推進	担当課
		教育総務課 健康教育課 高崎経済大学 附属高等学校
取組	3-1 安全・安心な学校づくり 3-2 多様で弾力的な活動を可能にする学校づくり 3-3 地域性を発揮させた学校づくり 3-4 環境にやさしい学校づくり	

事業名	箕輪小学校校舎改築事業（取組 3-1・3-2・3-3・3-4）					
事業の目的	老朽化した校舎の改築工事の実施					
実施状況	<p>耐力度調査の結果「改築が必要」と判定された校舎の改築工事を完成させた。 <校舎改築のポイント> ○市産木材を使用した、木造2階建ての校舎 ○多様な学習活動に対応できる多目的スペース、少人数教室の整備 ○新校舎と東校庭を結ぶ歩道橋を整備し、児童の安全に配慮 ○屋根に太陽光発電を設置し、環境に配慮</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>南側全景</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>東側昇降口</p> </div> </div> <p>◆事業進捗率（事業費ベース）</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>令和2年度目標</th> <th>令和2年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>		令和2年度目標	令和2年度実績	100%	100%
令和2年度目標	令和2年度実績					
100%	100%					
評価検証	計画どおりに完成した。					
今後の方針	施設の点検結果や老朽化の状況を考慮し、計画的な更新に努めていく。					

事業名	学校施設改修事業（小学校、中学校、特別支援学校、幼稚園）（取組 3-1）
事業の目的	各学校園を巡回し、改修等の要望箇所を確認し、安全で快適な教育環境の維持管理を図る。
実施状況	「工事要望調査」等により、施設の状況を把握し、危険や不具合を感じる箇所の調査を行い、調査結果を基に各所の補修・改修工事やトイレ洋式化等の工事を実施した。
評価検証	施設の老朽化により各学校園からの要望も多くなってきているが、予算の範囲内で危険度の高いものから優先して改修を行った。 外壁改修工事や給水管更新工事で学校施設の安全性の確保に努めるとともに、トイレ洋式化等の工事により学習環境の機能性の向上に努めた。
今後の方針	各学校園からの要望や施設の点検結果を踏まえ、優先度の高いものから改修を行っていく。


事業名	学校施設整備事業（高等学校）（取組 3-1）
事業の目的	安全で快適な学習環境と、生徒が安心して学校教育活動に取り組める環境を創出するため、学校施設の計画的な整備や適切な維持管理に努め、高等学校教育の充実を目指す。
実施状況	施設の老朽化により補修箇所が年々増加しているため、危険な状態、又は学校運営上、重大な支障が生じる箇所から優先的に補修を行った。
評価検証	予算の範囲内で、危険度及び必要性の高いものから優先して改修した。
今後の方針	学校施設のより一層の適切な維持管理に努めるとともに、必要な修繕工事等を優先度の高いものから実施していく。

事業名	学校体育施設開放事業（取組 3-2）												
事業の目的	生涯スポーツの普及と推進を図るため、各種団体のスポーツやレクリエーション活動に対し、小中学校施設等の体育施設の積極的な開放を行う。												
実施状況	<p>学校体育施設開放については、各学校の校庭や体育館等の体育施設を活用して実施している。令和 2 年度は 4・5 月の学校休校に伴い、6 月から施設利用を開始した。利用者へは、利用前の検温や共有部分の消毒などを依頼し、感染症対策の徹底に努めた。</p> <p>◆学校体育施設利用者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>620,000 人</td> <td>667,167 人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>610,000 人</td> <td>640,386 人</td> </tr> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>670,000 人</td> <td>456,771 人</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	平成 30 年度	620,000 人	667,167 人	令和元年度	610,000 人	640,386 人	令和 2 年度	670,000 人	456,771 人
年度	目標	実績											
平成 30 年度	620,000 人	667,167 人											
令和元年度	610,000 人	640,386 人											
令和 2 年度	670,000 人	456,771 人											
評価検証	6 月からは感染症対策を徹底しながら、多くの市民が学校体育施設を利用して、生涯スポーツの推進を図ることができた。また、コロナ禍で多くのスポーツイベントや大会が中止となる中、身近なスポーツ活動に親しむ場として有効活用を図ることができた。健康及び体力の保持増進や地域におけるスポーツを通じた交流の場として、登録団体数は毎年増加している。												
今後の方針	学校体育施設が、地域の生涯スポーツ活動の場となるよう、更なる普及・推進に向け、引き続き制度の周知活動に力を入れていく。また、利用者が安全にスポーツに親しむことができるよう、感染症対策を行うとともに、屋外照明の修繕や使用する器具の安全管理について整備を進めていく。												


点検・評価シート

施策の視点	4 地域力を育む社会教育の充実	担当課
		社会教育課 中央公民館
取組	4-1-1 地域の教育力を活かした事業の推進 4-1-2 学社連携・融合による生涯学習の推進 4-1-3 人権文化の創造 4-1-4 家庭教育の振興 4-1-5 学習支援体制の整備 4-1-6 平和な社会生活の創造 4-1-7 地域の課題に対応した公民館事業の推進 4-1-8 社会教育施設の学習環境の整備	

事業名	地区推進体制整備事業（取組 4-1-1）													
事業の目的	学習者と地域をつなぐコーディネーターとしての役割を担っている生涯学習推進員の活動を支援し、地域住民の生涯学習推進の充実を図る。													
実施状況	<p>◆生涯学習推進研究大会</p> <p>令和2年度は、第2ブロック佐野・塚沢・東部・中居・矢中小学校区による「第2ブロックの活動」、第5ブロック多胡小学校区による「老人パワーは地域の力～長寿会の活動～」、中央公民館主事による「学校と地域をつなぐ公民館の取組について」のそれぞれの事例研究発表を行った。</p> <p>◆生涯学習推進員が関わった地域活動</p> <p>参加人数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成30年度</td> <td>16,000人</td> <td>16,541人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>17,046人</td> <td>16,069人</td> </tr> <tr> <td>平成2年度</td> <td>16,541人</td> <td>4,476人</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	平成30年度	16,000人	16,541人	令和元年度	17,046人	16,069人	平成2年度	16,541人	4,476人	 <p>生涯学習推進研究大会</p>
年度	目標	実績												
平成30年度	16,000人	16,541人												
令和元年度	17,046人	16,069人												
平成2年度	16,541人	4,476人												
評価検証	生涯学習推進研究大会は、生涯学習フェスティバルと同時開催することにより、多くの市民に生涯学習活動を始めのきっかけを提供している。推進員が関わった地域活動の参加人数は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け前年度より減少したものの、推進員連絡会議を開催し、各地域の活動状況や課題などを共有できた。推進員の活動が更に地域住民に理解されることが大切である。													
今後の方針	地域活動に生涯学習推進員が積極的にに関わり、学校や公民館等の社会教育施設との連携を深め、参加者を増やせるよう生涯学習の活性化に努める。生涯学習推進員の役割や地域の特性を生かしながら、意欲的に活動に取り組んでいる状況を明確にし、更なる支援を図る。													

事業名	公民館運営事業（取組 4-1-2・4-1-7）																									
事業の目的	地域の特色と住民の学習要求に対応した事業の展開を通して、「心豊かな活力ある人づくり・地域づくり」を行う。																									
実施状況	<p>公民館主催事業については、次の4つを柱に展開している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ライフアップ推進事業－高齢者、健康、家庭教育、環境教育、防災・防犯、人権等の社会的な課題に関する学習機会を提供する事業 2 キャリアデザイン支援事業－生きがいのある人生設計を考え、個々の能力や個性の開発に挑戦できる学習機会を提供する事業 3 地域づくり支援・ボランティア養成事業－地域の伝統や文化をより発展させるための支援や活動ボランティアを養成する事業 4 図書ボランティア活動支援事業－心豊かな子どもたちの成長を願い、公民館図書活動を充実させるための事業 <p>◆公民館利用者数</p> <table border="1" data-bbox="384 766 976 965"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>900,000 人</td> <td>830,807 人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>890,000 人</td> <td>782,419 人</td> </tr> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>860,000 人</td> <td>401,648 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆公民館主催事業への参加者数</p> <table border="1" data-bbox="384 1021 976 1220"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>130,000 人</td> <td>115,992 人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>130,000 人</td> <td>103,267 人</td> </tr> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>120,000 人</td> <td>31,272 人</td> </tr> </tbody> </table>  <p>町探検！もっと知りたい私たちの町の様子 （六郷公民館主催事業）</p>		年度	目標	実績	平成 30 年度	900,000 人	830,807 人	令和元年度	890,000 人	782,419 人	令和 2 年度	860,000 人	401,648 人	年度	目標	実績	平成 30 年度	130,000 人	115,992 人	令和元年度	130,000 人	103,267 人	令和 2 年度	120,000 人	31,272 人
年度	目標	実績																								
平成 30 年度	900,000 人	830,807 人																								
令和元年度	890,000 人	782,419 人																								
令和 2 年度	860,000 人	401,648 人																								
年度	目標	実績																								
平成 30 年度	130,000 人	115,992 人																								
令和元年度	130,000 人	103,267 人																								
令和 2 年度	120,000 人	31,272 人																								
評価検証	<p>新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から4月18日から5月15日まで全公民館を臨時休館としたが、その後は感染症対策を講じた上で開館し、住民が集い活動する地域の拠点としての役割を果たした。しかし、臨時休館やサークル活動の自粛、主催事業の中止等のため、公民館利用者数、公民館主催事業への参加者数ともに前年度より大きく減少した。</p> <p>各公民館では「公民館だより」の町内回覧やホームページ「まなびネットたかさき」の活用などにより、市民に公民館事業への参加を呼びかけ、必要とする人に情報が届くように努めるとともに、団体育成・地域づくりの支援を行っている。地域の特色を生かした新たな事業として、子どもたちが身近な大人から地域について学ぶ六郷公民館の「町探検！もっと知りたい私たちの町」、小学校と連携しがん教育に関するさまざまな事業を行う豊岡公民館の「がん予防講座」を始めとした事業を展開した。また、インターネットを活用した新たな事業として、学生と協働で地域についての動画を配信する久留馬公民館の「久留馬のくるっとまるっとチャンネル」、オンライン会議システムで参加できる東部公民館の「新しい生活様式における子育て術」などを行い、コロナ禍における学習機会の提供に取り組んだ。</p>																									
今後の方針	<p>地域住民の生活を支える社会教育活動の拠点として生涯学習の推進に努めるとともに、公民館職員の資質の向上を図りながら、心豊かな活力ある人づくり・地域づくりに資する事業を推進していく。</p>																									

事業名	生涯学習推進事業（取組 4-1-1・4-1-5）																								
事業の目的	市民一人ひとりの主体的な学習活動が地域づくりに生かされ、地域力を育む生涯学習社会が創造されるよう本事業の推進を図るとともに市民の学習活動を支援する。																								
実施状況	<p>◆生涯学習推進事業参加者・受講者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>令和2年度目標</th> <th>令和2年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生涯学習推進研究事業</td> <td>380人</td> <td>212人</td> </tr> <tr> <td>生涯学習フェスティバル</td> <td>500人</td> <td>390人</td> </tr> <tr> <td>まちづくり出前講座</td> <td>7,000人</td> <td>1,315人</td> </tr> <tr> <td>まなびネットたかさきの閲覧回数</td> <td>265,000回</td> <td>198,730回</td> </tr> <tr> <td>地域人材登録活用事業</td> <td>8,000人</td> <td>2,152人</td> </tr> <tr> <td>高崎学検定事業</td> <td>110人</td> <td>84人</td> </tr> <tr> <td>高崎学検定新規受検者の割合</td> <td>30%</td> <td>23.7%</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆たかさき子ども活動デーの推進</p> <p>学習活動の一環として土曜日を有意義に過ごせるよう、市内をはじめ県内各施設の子ども向け事業の情報を掲載した「たかさき子ども活動デー・インフォメーション」を140,000部発行した。</p>	事業名	令和2年度目標	令和2年度実績	生涯学習推進研究事業	380人	212人	生涯学習フェスティバル	500人	390人	まちづくり出前講座	7,000人	1,315人	まなびネットたかさきの閲覧回数	265,000回	198,730回	地域人材登録活用事業	8,000人	2,152人	高崎学検定事業	110人	84人	高崎学検定新規受検者の割合	30%	23.7%
事業名	令和2年度目標	令和2年度実績																							
生涯学習推進研究事業	380人	212人																							
生涯学習フェスティバル	500人	390人																							
まちづくり出前講座	7,000人	1,315人																							
まなびネットたかさきの閲覧回数	265,000回	198,730回																							
地域人材登録活用事業	8,000人	2,152人																							
高崎学検定事業	110人	84人																							
高崎学検定新規受検者の割合	30%	23.7%																							
評価検証	<p>「生涯学習フェスティバル」は、目標値には届かなかったが、入場者を会場の収容定員の50%以下に制限するなど感染症対策を講じて開催し、市民の学習支援に努めた。</p> <p>「生涯学習推進研究事業」と「出前講座」の参加者数は前年度より減少し、「まなびネットたかさき」の閲覧回数も情報掲載数の減により目標値に届かなかったが、いずれも新型コロナウイルス感染拡大防止のための事業中止や活動自粛等によるものである。</p> <p>「地域人材登録活用事業」は、コロナの影響により受講者数は減少したが、新たな人材を発掘し講師登録したことにより、講師登録者数は前年度の実績を維持した。</p> <p>「高崎学検定事業」は、感染対策を講じて安心して受検できる環境を整え、各メディアによる周知活動を行ったことにより、コロナ禍の状況でも受検者数（前年比△12人）、新規受検者割合（前年比△6.3%）と微かな減少にとどまった。</p>																								
今後の方針	インターネットを利用した生涯学習情報システム「まなびネットたかさき」の内容を更に充実・活用する。関係機関との調整を図るとともに連携を深め、積極的な学習支援や周知・啓発を行い市民サービスの向上に努める。各種事業においては、当分の間、会場での換気を徹底し、手指消毒や検温、座席間隔をあける、出入動線を分けるなどの感染症対策を講じて実施する。																								

事業名	人権文化創造事業（取組 4-1-3・4-1-6）																																																
事業の目的	人権尊重都市宣言の具現化を目指し、基本的人権尊重の精神が本市の隅々まで浸透し、「思いやりの心が行きわたるまちたかさき」の創造を図るため、人の立場を尊重しつつ、人を思いやる心を持つことの大切さを啓発し、支え合って生活していけるよう、さまざまな人権課題に関する講座、懇談会等を開催する。																																																
実施状況	<p>◆心豊かな地域づくりのための懇談会参加者数</p> <table border="1" data-bbox="368 432 908 629"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>2,300 人</td> <td>1,997 人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>2,200 人</td> <td>1,987 人</td> </tr> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>2,200 人</td> <td>335 人</td> </tr> </tbody> </table>  <p>◆心豊かな地域づくりのための懇談会 「参考になった」と答えた参加者の割合</p> <table border="1" data-bbox="368 725 908 922"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>90%</td> <td>94%</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>95%</td> <td>94%</td> </tr> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>95%</td> <td>95%</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆人権教育講座参加者数（公民館主催）</p> <table border="1" data-bbox="368 972 908 1169"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>1,700 人</td> <td>1,500 人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>1,500 人</td> <td>1,411 人</td> </tr> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>1,600 人</td> <td>600 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆人権講演会参加者数（「思いやりを持った社会を作るための市民研修会」等）</p> <table border="1" data-bbox="368 1218 908 1415"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>420 人</td> <td>328 人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>400 人</td> <td>363 人</td> </tr> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>380 人</td> <td>148 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>思いやりを持った社会を作るための市民研修会</p>	年度	目標	実績	平成 30 年度	2,300 人	1,997 人	令和元年度	2,200 人	1,987 人	令和 2 年度	2,200 人	335 人	年度	目標	実績	平成 30 年度	90%	94%	令和元年度	95%	94%	令和 2 年度	95%	95%	年度	目標	実績	平成 30 年度	1,700 人	1,500 人	令和元年度	1,500 人	1,411 人	令和 2 年度	1,600 人	600 人	年度	目標	実績	平成 30 年度	420 人	328 人	令和元年度	400 人	363 人	令和 2 年度	380 人	148 人
年度	目標	実績																																															
平成 30 年度	2,300 人	1,997 人																																															
令和元年度	2,200 人	1,987 人																																															
令和 2 年度	2,200 人	335 人																																															
年度	目標	実績																																															
平成 30 年度	90%	94%																																															
令和元年度	95%	94%																																															
令和 2 年度	95%	95%																																															
年度	目標	実績																																															
平成 30 年度	1,700 人	1,500 人																																															
令和元年度	1,500 人	1,411 人																																															
令和 2 年度	1,600 人	600 人																																															
年度	目標	実績																																															
平成 30 年度	420 人	328 人																																															
令和元年度	400 人	363 人																																															
令和 2 年度	380 人	148 人																																															
評価検証	<p>「心豊かな地域づくりのための懇談会」では、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった公民館も多く、参加者数が減少したが、人権擁護委員と事前に共通理解を図り助言が的確であったことや、市の相談先を周知したことで「参考になった」と答えた参加者の割合が95%となり目標値を達成することができた。子育て世代への参加の呼びかけは、今年度は行いづらい状況であったが、アンケートに世代間を超えての交流を求めるものがあった。</p> <p>各公民館で開催している「人権教育講座」では、コロナの影響により未開催の公民館があり、参加者数が減少した。33館で実施した講座のうち、子どもを対象とした講座が10館と一番多く、次いで高齢者を対象とした講座が5館実施され、幅広い世代の学習の場となった。</p> <p>「人権講演会」の参加者数はコロナ拡大防止のため1つの講座が中止、1つの会議が書面開催となり、目標値には届かなかったが、10月以降の講座は、参加人数を制限するなど感染症対策を行い開催することができた。</p>																																																

今後の方針	<p>コロナの感染状況などを鑑みて、安全安心を最大限考慮に入れながら、市内の各地区公民館との連携・協働を図り、人権課題に関する講座、懇談会等により幅広い世代の参加者が得られるよう周知を行う。講座の実施に際しては、さまざまな時間設定や状況の変化に対応できるような内容の組合せや資料の選定を考えていく。講座の企画にあたり、前年度のアンケート結果を考察し、市民の実態把握や地域の課題や実情を理解し、参加意義や充実感を感じられるよう心がけるとともに子育て世代への呼びかけを強めるなど、世代間交流を図る。</p>
-------	---

事業名	家庭教育支援事業（取組 4-1-4）																								
事業の目的	<p>家庭の教育力の向上を目指すとともに、子どもを取り巻く環境の変化に対応するために家庭教育に関する各種講座を開催する。また、子育て支援に携わる市民との協働を図り、子育て支援にかかわる情報の共有や発信、活動支援を行う。</p>																								
実施状況	<p>◆家庭教育関連講座参加者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>4,600 人</td> <td>4,303 人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>4,500 人</td> <td>4,002 人</td> </tr> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>4,400 人</td> <td>3,462 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆家庭教育関連講座の満足度</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>95%</td> <td>98%</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>99%</td> <td>98%</td> </tr> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>99%</td> <td>98%</td> </tr> </tbody> </table> <div data-bbox="948 804 1417 1155" data-label="Image"> </div> <p>幼児期子育て講座の様子</p>	年度	目標	実績	平成 30 年度	4,600 人	4,303 人	令和元年度	4,500 人	4,002 人	令和 2 年度	4,400 人	3,462 人	年度	目標	実績	平成 30 年度	95%	98%	令和元年度	99%	98%	令和 2 年度	99%	98%
年度	目標	実績																							
平成 30 年度	4,600 人	4,303 人																							
令和元年度	4,500 人	4,002 人																							
令和 2 年度	4,400 人	3,462 人																							
年度	目標	実績																							
平成 30 年度	95%	98%																							
令和元年度	99%	98%																							
令和 2 年度	99%	98%																							
評価検証	<p>昨年度のアンケート結果を基に、市民のニーズに合わせた参加体験型の講座を多く企画した。新型コロナウイルス感染症の影響で講座の中止や参加者の制限などを行ったため、参加者数は目標値に届かなかったものの、アンケートによる満足度調査では、講座に対する「満足」の割合は98%と高い評価を得ることができた。また「子育て情報紙（すくいく）」の簡易版を作成し、母子等保健推進員が適切な支援を行えるよう、携行資料として配布した。</p>																								
今後の方針	<p>市民が子育てに抱く悩みや不安の解消に向け、引き続き市民のニーズに合った講座と参加者が満足感を得られる参加体験型の講座を展開していく。またコロナ禍によって引き起こされる子育てに関する不安や悩みに関してもアンケートを通して市民の声を聞き、講座に生かしていく。</p> <p>あわせて家庭教育支援に関する情報を「まなびネットたかさき」や「子育て情報紙（すくいく）」などで引き続き市民に提供することで、本市の家庭教育力を高めしていく。</p>																								

事業名	視聴覚教育事業（取組 4-1-5）																								
事業の目的	視聴覚教育の推進を図るため、フィルムライブラリーの貸出しの充実を図る。																								
実施状況	<p>◆視聴覚教材（フィルムライブラリー）貸出数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>200 本</td> <td>184 本</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>160 本</td> <td>158 本</td> </tr> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>180 本</td> <td>36 本</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆視聴覚教具貸出数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>80 件</td> <td>102 件</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>80 件</td> <td>48 件</td> </tr> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>100 件</td> <td>6 件</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	平成 30 年度	200 本	184 本	令和元年度	160 本	158 本	令和 2 年度	180 本	36 本	年度	目標	実績	平成 30 年度	80 件	102 件	令和元年度	80 件	48 件	令和 2 年度	100 件	6 件
年度	目標	実績																							
平成 30 年度	200 本	184 本																							
令和元年度	160 本	158 本																							
令和 2 年度	180 本	36 本																							
年度	目標	実績																							
平成 30 年度	80 件	102 件																							
令和元年度	80 件	48 件																							
令和 2 年度	100 件	6 件																							
評価検証	令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染拡大による行動変容により、密を避けるため 16 ミリフィルムや DVD を利用する団体が減り、貸出数の大幅な減少がみられた。しかし、新型コロナウイルス終息を見据え、いつでも貸出しができるよう、16 ミリフィルムの点検等が重要と考え、丁寧な点検が行えた。																								
今後の方針	コロナ終息後を見据えた利用者のニーズを把握し、DVD 資料の充実やフィルムの劣化防止に努めていく。また一般の親子を対象とした子ども映画会を充実させるなどして、視聴覚教材に対する興味関心を高揚させていきたい。そのためには、広報活動の充実も図っていく。また、より多くの団体やサークルが利用したくなるよう、「まなびネットたかさき」での掲載も充実させ、活用しやすい機器の導入、利用できる機器の紹介など、関係する各課・担当との連携を図りながら啓発活動を行っていく。さらに映写機の定期点検と共に、より扱いやすい機器の購入などを通して、利用者が活用しやすい環境づくりを継続していく。																								

事業名	公民館整備事業（取組 4-1-8）
事業の目的	本市の公民館は中央公民館のほか、44の地区公民館を設置し、地域力を高めるさまざまな生涯学習活動を推進している。快適な学習環境を提供するため、安全で利用しやすい公民館施設の整備を図る。
実施状況	地域づくりの拠点となる公民館の整備を促進するため、令和2年度は既存公民館の修繕を49件、工事を25件実施した。
評価検証	老朽化対策としてトイレ洋式化や空調機械の更新等の公民館修繕（補修）工事を行ったことにより、快適で利用しやすい施設とすることができた。
今後の方針	公民館の整備は、既存の施設については施設の老朽化と耐震診断による結果を踏まえ、改修改築等の方針を定めていきたい。また、新たな公民館建設については、地域の特性、人口等の状況や既存公民館の維持補修の状況などから整備を検討していきたい。

事業名	社会教育施設改修事業（取組 4-1-8）
事業の目的	誰もが快適な学習環境で学べるよう、社会教育施設の修繕・工事や維持管理を行う。施設の老朽化等各館の状況を踏まえ、安全で利用しやすい社会教育施設の整備を図る。
実施状況	市内17か所ある交流館等の社会教育施設が機能を発揮できるように、適切な維持管理・修繕を実施した。
評価検証	交流館の修繕・工事は緊急性が高いものに重点的に予算を充て、令和2年度は浄化槽補修やエアコン修繕など7件の修繕、軒天塗装や外壁補修などの7件の工事を行った。
今後の方針	陶芸体験施設牛伏窯や交流館の維持管理については、今後も計画的な補修などに努め、適切な管理を行っていく。

事業名	市民活動センター管理運営事業（取組 4-1-8）																								
事業の目的	市民活動センターは、市民の生涯学習活動の支援、男女共同参画社会の実現及び市民公益活動の促進を目的として設置された施設であり、これらの目的を達成するため、諸事業を実施するとともに市民活動の支援に努める。																								
実施状況	<p>◆市民活動センター利用者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>60,000 人</td> <td>57,792 人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>64,000 人</td> <td>48,019 人</td> </tr> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>59,000 人</td> <td>22,185 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆市民活動センター団体登録数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>300 団体</td> <td>281 団体</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>300 団体</td> <td>292 団体</td> </tr> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>300 団体</td> <td>282 団体</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標	実績	平成 30 年度	60,000 人	57,792 人	令和元年度	64,000 人	48,019 人	令和 2 年度	59,000 人	22,185 人	年度	目標	実績	平成 30 年度	300 団体	281 団体	令和元年度	300 団体	292 団体	令和 2 年度	300 団体	282 団体
年度	目標	実績																							
平成 30 年度	60,000 人	57,792 人																							
令和元年度	64,000 人	48,019 人																							
令和 2 年度	59,000 人	22,185 人																							
年度	目標	実績																							
平成 30 年度	300 団体	281 団体																							
令和元年度	300 団体	292 団体																							
令和 2 年度	300 団体	282 団体																							
評価検証	各団体の催し入場者数の減少や、新型コロナウイルス感染症の影響で団体が利用を取りやめたことにより、年間利用者数は半減した。一方、さまざまな事業を通して市民活動センターが周知されたことにより、団体登録数は微かな減少にとどまった。																								
今後の方針	市民活動センターは、生涯学習活動の支援、男女共同参画社会の実現及び市民公益活動の促進のための拠点施設として、事業を更に強化していく必要がある。 引き続き、利用者数、団体登録数の確保及び円滑な事業運営のための工夫を進める。																								

施策の視点	4 地域力を育む社会教育の充実	担当課
		中央図書館
取組	4-2-1 図書館資料の充実 4-2-2 図書館ネットワークの活用 4-2-3 市民生活に役立つ図書館づくり 4-2-4 子どもの読書活動の推進 4-2-5 関係諸機関との連携	

事業名	図書館管理運営事業（取組 4-2-1・4-2-2）																											
事業の目的	最新の社会動向をはじめ、市民の幅広い学習ニーズに対応できるよう、所蔵資料やサービスの一層の充実を図り、より利用しやすい図書館を目指す。 また、市立図書館 6 館及び地域の拠点となる公民館等との連携を強化し、更なる利便性の向上を図る。																											
実施状況	<p>◆個人貸出点数</p> <table border="1"> <tr> <th>令和 2 年度実績</th> </tr> <tr> <td>1,857,916 点</td> </tr> </table> <p>◆図書館資料個人貸出点数 年度推移</p> <table border="1"> <caption>◆資料貸出点数 (点)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 28 年度</td> <td>2,321,018</td> </tr> <tr> <td>平成 29 年度</td> <td>2,268,727</td> </tr> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>2,275,157</td> </tr> <tr> <td>令和 元年度</td> <td>2,236,507</td> </tr> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>1,857,916</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆図書館資料貸出人数 年度推移</p> <table border="1"> <caption>◆資料貸出人数 (人)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 28 年度</td> <td>569,498</td> </tr> <tr> <td>平成 29 年度</td> <td>548,407</td> </tr> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>562,188</td> </tr> <tr> <td>令和 元年度</td> <td>550,426</td> </tr> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>450,133</td> </tr> </tbody> </table>		令和 2 年度実績	1,857,916 点	年度	合計	平成 28 年度	2,321,018	平成 29 年度	2,268,727	平成 30 年度	2,275,157	令和 元年度	2,236,507	令和 2 年度	1,857,916	年度	合計	平成 28 年度	569,498	平成 29 年度	548,407	平成 30 年度	562,188	令和 元年度	550,426	令和 2 年度	450,133
令和 2 年度実績																												
1,857,916 点																												
年度	合計																											
平成 28 年度	2,321,018																											
平成 29 年度	2,268,727																											
平成 30 年度	2,275,157																											
令和 元年度	2,236,507																											
令和 2 年度	1,857,916																											
年度	合計																											
平成 28 年度	569,498																											
平成 29 年度	548,407																											
平成 30 年度	562,188																											
令和 元年度	550,426																											
令和 2 年度	450,133																											

◆資料別蔵書点数

区 分		令和元年度 蔵書数 (点)	令和2年度 蔵書数 (点)
高崎市立中央図書館	一 般	491,549	500,237
	児 童	84,597	85,889
	視聴覚	89,478	80,692
公民館等	一 般	30,793	31,148
	児 童	29,850	30,159
	視聴覚	4	0
高崎駅サービスセンター	一 般	19,727	19,987
	児 童	1,381	1,418
箕郷図書館	一 般	31,706	31,088
	児 童	14,188	14,250
	視聴覚	3,835	3,868
群馬図書館	一 般	108,673	108,477
	児 童	36,370	36,746
	視聴覚	7,703	7,874
新町図書館	一 般	70,482	69,314
	児 童	25,645	25,642
	視聴覚	6,912	6,746
榛名図書館	一 般	42,847	44,190
	児 童	21,498	22,164
	視聴覚	3,240	3,449
山種記念吉井図書館	一 般	31,801	32,638
	児 童	24,287	24,576
	視聴覚	3,090	3,173
合 計		1,179,656	1,183,725

実施状況

評価検証

令和2年度から視覚障害者情報総合ネットワーク「サピエ」に加入することにより、活字を読むことが困難な人への充実した資料の提供を可能とした。また、市立図書館6館及び地域の拠点となる公民館等との間の物流システムが円滑に運用されるなど、利便性の向上が図られている。

なお、個人貸出点数及び貸出人数の前年度からの減少については、新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休館や一部サービスの制限などの措置を講じたことによる影響が大きいと考える。

今後の方針

多くの市民が読書への興味関心を高められるよう、企画展示や特集コーナーの設置、インターネットを活用した情報発信などを推進する。図書館がより有効に活用されるよう、図書館資料収集管理方針に基づき、適正な蔵書管理に努め、図書資料や視聴覚資料の充実を図る。また、引き続き各施設の間を物流システムで結び、利用者の利便性を図り、サービスの拡大に努める。

事業名	市民生活に寄り添う図書館づくり（取組 4-2-3）																
事業の目的	レファレンスサービスの更なる向上と提供体制の充実を図ることにより、市民が求める資料や情報を的確に案内・提供するとともに、学習や調査研究の円滑な推進を支援する。																
実施状況	<p>レファレンス事例を図書館ホームページ及び国立国会図書館が全国の図書館等と協同で構築しているレファレンス協同データベースに登録公開した。</p> <p>◆レファレンス協同データベース新規登録件数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>11 件</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>17 件</td> </tr> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>52 件</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆レファレンス協同データベース年間被参照数（アクセス数）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>272,865 回</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>327,617 回</td> </tr> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>260,035 回</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績	平成 30 年度	11 件	令和元年度	17 件	令和 2 年度	52 件	年度	実績	平成 30 年度	272,865 回	令和元年度	327,617 回	令和 2 年度	260,035 回
年度	実績																
平成 30 年度	11 件																
令和元年度	17 件																
令和 2 年度	52 件																
年度	実績																
平成 30 年度	272,865 回																
令和元年度	327,617 回																
令和 2 年度	260,035 回																
評価検証	レファレンス事例のデータベース化は、市民が求めるさまざまな資料を的確かつ短時間に提供することを可能としている。また、図書館ホームページで事例を公開することにより、市民の学習や調査研究に有用な情報源を提供するのみならず、レファレンスサービスの存在を広く市民に示すことができている。																
今後の方針	レファレンスサービスと情報発信を積極的に推進し、市民生活や地域の課題解決に有用な情報提供施設としての機能の強化に努める。																



事業名	子どもの読書活動の推進（取組 4-2-4）										
事業の目的	学校連携パックの提供や学校図書館指導員へのレファレンス対応など、各学校図書館との連携と協力を推進することにより、子どもたちが幅広い分野の本に多く触れることのできる機会を提供し、学習活動や読書活動の一層の充実を図る。										
実施状況	<p>◆学校連携相談対応貸出実績</p> <table border="1"> <tr> <th colspan="2">令和2年度実績</th> </tr> <tr> <td>303件（43校）</td> <td>6,394冊</td> </tr> </table> <p>◆県立図書館学習支援セット貸出実績</p> <table border="1"> <tr> <th colspan="2">令和2年度実績</th> </tr> <tr> <td>小学校</td> <td>20回</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>3回</td> </tr> </table> <p>上記のほか、「がっこう⇄たかさき としょかん通信」を6回発行した。 また、学校図書館指導員の研修に図書館職員を講師として派遣した。</p>	令和2年度実績		303件（43校）	6,394冊	令和2年度実績		小学校	20回	中学校	3回
令和2年度実績											
303件（43校）	6,394冊										
令和2年度実績											
小学校	20回										
中学校	3回										
評価検証	学校連携事業については、学校からの要望を踏まえ新たな学校連携パックを作成するなど内容の充実に努めた。学校側においても連携パックを参考に図書を購入を行うという事例も見受けられた。貸出し以外にも学校図書館指導員からの相談や業務の中で感じるさまざまな疑問への対応が図られた。										
今後の方針	読書を通じて子どもたちの主体的な問題解決能力や豊かな感性を育むことができるよう、学校連携パックの内容の創意工夫を図るとともに、学校図書館との連携・協力を更に強化させ、子どもたちの充実した読書環境や学習環境の整備に努める。										

事業名	関係諸機関との連携事業（取組 4-2-5）						
事業の目的	関係部署と連携して企画展示や市内外の図書館との相互貸借の実施により、市民の学習や課題解決に資するさまざまな情報や資料を幅広く提供し、利便性とサービスの一層の向上を図る。						
実施状況	<p>関係部署と連携して中央図書館の展示コーナーにおいて、高崎学検定や上野三碑かるた、認知症についてなど、年間5回の企画展示を実施した。</p> <p>また、市外の公共図書館や近隣の大学図書館との相互貸借を積極的に展開し、市民が必要とする資料を迅速に提供することに努めた。</p> <p>実物の展示や公開が困難な貴重な歴史的資料9点について、群馬県立図書館が運営するデジタルライブラリーで画像を公開した。</p> <p>◆相互貸借実績</p> <table border="1" data-bbox="368 759 904 909"> <thead> <tr> <th colspan="2">令和2年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>借受</td> <td>1,349 件</td> </tr> <tr> <td>貸出</td> <td>1,537 件</td> </tr> </tbody> </table>	令和2年度実績		借受	1,349 件	貸出	1,537 件
令和2年度実績							
借受	1,349 件						
貸出	1,537 件						
評価検証	<p>関係部署と連携して館内での企画展示を実施し、市民にさまざまな行政に関する情報を提供するとともに、市外図書館との相互貸借により、幅広い資料や情報を市民に提供することができた。</p> <p>また、群馬県立図書館が運営するデジタルライブラリーを活用し、当館が所蔵する貴重な歴史的資料をデジタル画像として広く公開することができた。</p>						
今後の方針	関係部署との連携によるさまざまな企画展示を継続するとともに、貴重な歴史的資料のデジタル化を推進して積極的な公開に努めるなど、更なるサービスの向上を図る。						


点検・評価シート


施策の視点	5 歴史や文化の薫り高い文化環境づくりの推進	担当課
		文化財保護課
取組	5-1 文化財保存活用地域計画の策定・推進 5-2 身近な文化遺産の活用と歴史学習の環境づくり 5-3 市民への文化財情報の提供 5-4 文化財に親しむための環境づくり 5-5 歴史的建造物の保存へ向けた環境整備 5-6 地域の文化財の掘り起こしと保護するための環境づくり 5-7 民俗資料の収集と展示 5-8 市民の積極的参加を促す資料館活動 5-9 市民に開かれた資料館の運営 5-10 市民の学習活動の支援	

事業名	文化財保存活用地域計画の策定・推進事業（取組5-1）
事業の目的	市民共有の文化遺産の適切な保存、有効な活用方法や整備のあり方について文化財保存活用地域計画の策定を検討する。
実施状況	本市に存在する文化財を指定・未指定にかかわらず幅広く捉えて、文化財をその周辺環境を含めて総合的に保存・活用するための計画である文化財保存活用地域計画策定に向けた検討を進めた。
評価検証	文化財保存活用地域計画策定のための、情報収集及び資料整理作業を行った。
今後の方針	文化財保存活用地域計画の策定・推進を検討していく。

事業名	日高遺跡保存整備事業（取組 5-2）						
事業の目的	国指定史跡日高遺跡を永く保存し、市民共通の文化遺産としての活用を図るため、史跡公園として整備する。						
実施状況	<p>J R 上越線南側区域の整備工事を行い、安全施設工を実施した。</p> <p>また、供用を開始した J R 線北側区域では、復元した弥生時代の水田を活用し、地元で組織された「日高遺跡をともに楽しむ会」の会員で、稲作体験と未使用水田部に新たに菜の花の育成を行った。</p> <p>開園部分については、業務委託により除草等の管理を行った。</p> <p>◆事業進捗率（令和 2 年度）</p> <table border="1" data-bbox="370 887 874 983"> <thead> <tr> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>通算実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1%</td> <td>1%</td> <td>51%</td> </tr> </tbody> </table>  <p>整備完成予想図</p>  <p>稲作体験（田植え）の様子</p>	目標	実績	通算実績	1%	1%	51%
目標	実績	通算実績					
1%	1%	51%					
評価検証	整備工事に着手して 1 2 年目となり、上越線南側区域の工事を実施した。また、復元した水田では、地元で組織された活用団体の会員で稲作体験イベントや新たに菜の花育成などを実施し、公園の利用のあり方について市民の関心が高まった。						
今後の方針	J R 上越線南側区域の整備工事を推進する。						

事業名	箕輪城跡保存整備事業（取組 5-2）						
事業の目的	国指定史跡箕輪城跡を永く保存し、市民共通の文化遺産としての活用を図るため、史跡公園として整備する。						
実施状況	<p>史跡整備基本設計に基づき、本丸の土塁整備工事と本丸・蔵屋敷間木橋整備工事（基礎工事）を実施した。</p> <p>◆事業進捗率（令和2年度）</p> <table border="1" data-bbox="359 533 882 633"> <thead> <tr> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>通算実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4%</td> <td>4%</td> <td>74%</td> </tr> </tbody> </table> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div data-bbox="379 689 850 1064" style="text-align: center;">  <p>整備完成予想図</p> </div> <div data-bbox="890 689 1396 1064" style="text-align: center;">  <p>本丸・蔵屋敷間木橋整備工事状況（橋脚、橋桁工事）</p> </div> </div>	目標	実績	通算実績	4%	4%	74%
目標	実績	通算実績					
4%	4%	74%					
評価検証	整備工事に着手して10年目になり、郭馬出地区に引き続き、本丸地区の整備が着々と進んでいる状況である。						
今後の方針	本丸地区の整備工事を推進する。						

事業名	北谷遺跡保存整備事業（取組 5-2）							
事業の目的	国指定史跡北谷遺跡を永く保存し、市民共通の文化遺産としての活用を図るため、史跡公園として整備する。							
実施状況	<p>平成23年度に策定された保存管理計画をもとに、28年度から史跡地の公有地化に着手し、令和2年度も実施した。なお、令和2年には追加指定され、史跡面積が約3.6haから約3.8haに増加した。その他、除草等の史跡管理を行った。</p> <p>◆事業進捗率（令和2年度）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>通算実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6%</td> <td>3%</td> <td>87%</td> </tr> </tbody> </table>	目標	実績	通算実績	6%	3%	87%	 <p>北谷遺跡航空写真</p>
目標	実績	通算実績						
6%	3%	87%						
評価検証	追加指定により史跡面積が増加したため、事業進捗率は減少したが、引き続き史跡の公有地化を進めた。北谷遺跡の整備について、地元の関心が高まってきている。							
今後の方針	史跡地の公有地化を進める。							

事業名	山名古墳群保存整備事業（取組 5-2）	
事業の目的	市指定史跡山名古墳群を永く保存し、市民共通の文化遺産としての活用を図るため、史跡公園として整備する。	
実施状況	<p>除草等の維持管理を行い、来訪者が見学できるよう、周辺環境を整えた。</p> <p>駐車場は大型バスが駐車できるため、山名古墳群だけでなく、山上碑見学のための駐車場としても使用できるようにしている。</p>	 <p>山名古墳群航空写真</p>
評価検証	維持管理を継続しており、整備については、今後の検討課題となっている。	
今後の方針	上野三碑や他の史跡との一体的活用について検討を進めていく。	

事業名	「世界の記憶 上野三碑」関連事業（取組 5-2・5-3・5-4・5-10）
事業の目的	ユネスコ「世界の記憶」に登録された上野三碑の周知活動や周辺環境整備、保存管理等を実施する。
実施状況	<p>ユネスコ「世界の記憶」に登録された上野三碑の保存活用を進めるため、三碑一帯の整備、多胡碑記念館の機能強化、ボランティア団体との連携、動画配信や各種パンフレットを活用した情報発信、民間団体との協力による地域振興、児童・生徒への教育などに取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上野三碑普及推進会議の運営 令和元年度に作成した「上野三碑かるた」を県内全小・中・高校及び関係機関に配布し、在宅でもかるたを楽しめるよう、かるた読み上げアプリを作成した。 ・上野三碑めぐりバスの運行 (令和2年4月8日から5月15日まで臨時運休) ・多胡碑記念館入館料の無料化 (令和2年4月8日から5月15日まで臨時休館) ・ボランティア団体等への補助 上野三碑ボランティア会 山上碑・金井沢碑を愛する会 上野三碑をつなぐ会 ・副教材の配布 市立小学校、中学校の新1年生児童・生徒 ・レプリカの展示・貸出し 高崎駅コンコース（通年展示）、 新潟県立歴史博物館、福島県立博物館、 榛東村耳飾り館、南八幡公民館 ・ロゴマークの普及・使用許可 ・6館スタンプラリーの開催 ・周知事業 パンフレット作成及び配布、高崎駅ペDESTリアンデッキ看板設置等 ・環境整備 ボランティア団体と共同による作業
評価検証	<p>ユネスコ「世界の記憶」登録前と比較し、見学者数は2倍～1.5倍程度を維持してきたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により大幅に減少した。</p> <p>上野三碑めぐりバスの運行等においては、感染症対策を徹底し、利便性を高めるための計画を検討した。</p>
今後の方針	引き続き感染症対策をとりつつ、地元ボランティア団体等と協力し、上野三碑の更なる普及・推進に努めたい。




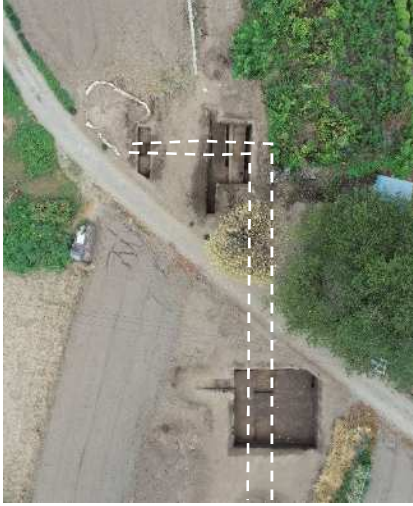
上野三碑めぐりバス



上野三碑副教材（小・中学生対象）

事業名	文化財保存活用事業（取組 5-2・5-6）																																
事業の目的	市内に点在する指定文化財を保護するとともに、史跡・重要文化財等の一般公開を実施する。また、文化財愛護精神の高揚を図るため、文化財作文コンクールなど参加型の関連事業を開催する。																																
実施状況	<p>保護普及活動事業として、文化財作文コンクールの実施、上豊岡の茶屋本陣等の歴史的建造物の公開をした。ユネスコ「世界の記憶」に登録された上野三碑の公開は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、中止となった。</p> <p>◆文化財作文コンクール応募者数</p> <table border="1" data-bbox="379 685 935 882"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>1,000 人</td> <td>1,268 人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>1,500 人</td> <td>1,293 人</td> </tr> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>1,500 人</td> <td>568 人</td> </tr> </tbody> </table>  <p>作文コンクール授賞式</p> <p>◆上豊岡の茶屋本陣見学者数</p> <table border="1" data-bbox="379 1025 935 1223"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>1,400 人</td> <td>826 人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>1,000 人</td> <td>1,162 人</td> </tr> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>1,000 人</td> <td>440 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆上野三碑一般公開見学者数</p> <table border="1" data-bbox="379 1361 874 1559"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 30 年度（2日公開）</td> <td>1,170 人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度（1日公開）</td> <td>589 人</td> </tr> <tr> <td>令和 2 年度（中止）</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>  <p>上野三碑フォーラム動画公開</p>	年度	目標	実績	平成 30 年度	1,000 人	1,268 人	令和元年度	1,500 人	1,293 人	令和 2 年度	1,500 人	568 人	年度	目標	実績	平成 30 年度	1,400 人	826 人	令和元年度	1,000 人	1,162 人	令和 2 年度	1,000 人	440 人	年度	実績	平成 30 年度（2日公開）	1,170 人	令和元年度（1日公開）	589 人	令和 2 年度（中止）	—
年度	目標	実績																															
平成 30 年度	1,000 人	1,268 人																															
令和元年度	1,500 人	1,293 人																															
令和 2 年度	1,500 人	568 人																															
年度	目標	実績																															
平成 30 年度	1,400 人	826 人																															
令和元年度	1,000 人	1,162 人																															
令和 2 年度	1,000 人	440 人																															
年度	実績																																
平成 30 年度（2日公開）	1,170 人																																
令和元年度（1日公開）	589 人																																
令和 2 年度（中止）	—																																
評価検証	文化財作文コンクール応募者数、上豊岡の茶屋本陣見学者数、上野三碑一般公開見学者数ともにコロナの影響により大幅な減となったが、代替として上野三碑解説動画を公開するなど、外出しなくても文化財に親しむことができる事業を実施した。																																
今後の方針	指定文化財の適切な保存管理に努め、文化財が身近に感じられるようなイベントの開催など、感染症対策を心掛けながら、文化財への理解を促していきたい。																																

事業名	埋蔵文化財調査事業（取組 5-3・5-4）												
事業の目的	<p>開発事業によって壊される遺跡の出土品などを展示し、その成果を広く市民に公開する。前橋高崎連携事業の一つとして文化財展を実施し、両市の市民が郷土史に理解を深めるような展示を行う。</p>												
実施状況	<p>前橋市との連携展示会をシティギャラリーで実施するとともに、展示解説会を行った。</p> <p>◆連携展入場者数</p> <table border="1" data-bbox="379 591 940 786"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>1,200 人</td> <td>1,150 人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>1,200 人</td> <td>885 人</td> </tr> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>1,200 人</td> <td>417 人</td> </tr> </tbody> </table> <div style="display: flex; flex-wrap: wrap; justify-content: space-around;">     </div> <p style="text-align: center;">高崎会場展示品</p>	年度	目標	実績	平成 30 年度	1,200 人	1,150 人	令和元年度	1,200 人	885 人	令和 2 年度	1,200 人	417 人
年度	目標	実績											
平成 30 年度	1,200 人	1,150 人											
令和元年度	1,200 人	885 人											
令和 2 年度	1,200 人	417 人											
評価検証	<p>「発掘調査最前線—東国文化の中心地を掘ってみた—」と題し、本市と前橋市にて過去 5 年間の発掘調査の中から特筆すべき遺跡を取り上げ、大切に伝えられた文化財を未来へつなぐため、両市の基礎となった歴史の豊かさを示す品々を展示した。</p>												
今後の方針	<p>発掘調査によって得られた資料をより生かすため、公開の場を増やし、文化財保護の保存と活用を図る。</p>												

事業名	多胡碑周辺重要遺跡範囲確認調査事業（取組5-3）							
事業の目的	多胡郡衙等の遺跡の所在、範囲及び性格を明らかにすることにより、多胡碑の史跡としての価値を高めるとともに、多胡碑の重要性等について周知を図る。							
実施状況	<p>10年目（全16年）の調査となった令和2年度は郡衙施設の有無を確認するため、多胡郡正倉跡及び多胡碑南東地区において126.51㎡を調査した。多胡郡正倉跡では古代の廃棄坑と南辺区画溝の伸延を確認し、多胡碑南東地区では多胡郡正倉跡と関連すると思われる古代の区画溝を確認した。</p> <p>本年度の多胡郡正倉跡内調査成果は、「多胡郡正倉跡2」として調査報告書を刊行した。</p> <p>調査成果は多胡碑記念館にて展示会を開催し、周知をした。</p> <p>◆事業進捗率（令和2年度）</p> <table border="1" data-bbox="379 1055 922 1153"> <thead> <tr> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>通算実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>11%</td> <td>11%</td> <td>67%</td> </tr> </tbody> </table>	目標	実績	通算実績	11%	11%	67%	 <p>南東地区で検出した区画溝跡（コーナー部）</p>
目標	実績	通算実績						
11%	11%	67%						
評価検証	<p>多胡郡正倉跡内での調査では、正倉建物の土壁である粘土塊が出土した廃棄坑や、一部しか判明していなかった南辺区画溝の延長を確認することができた。この調査成果をもって遺跡が広がる根拠を示すことができ、既存の調査成果を生かしピンポイントで調査区を絞り成果を上げることができた。この調査内容について発掘調査報告書で文化財的な価値付けを行い、史跡範囲追加指定のための意見具申につなげることができた。</p> <p>多胡碑南東地区での区画溝は北東部のコーナーをとらえることができ、多胡郡衙にかかわる施設を取り囲む遺構であることがわかった。</p> <p>本年度の調査成果は、新型コロナウイルス感染拡大防止を考慮して現地説明会の代わりに多胡碑記念館で展示会を開催したところ、マスコミにも取り上げられたため来場者が約150人に上った。</p>							
今後の方針	<p>多胡碑南東地区で多胡郡衙に関わる区画溝を検出したことから、溝に囲まれる遺跡の範囲の確定、及び内部施設の検出による遺跡の性格を明らかにするために確認調査を継続する。</p> <p>また、地元住民及び地権者に遺跡の重要性を伝える啓発活動を継続する。</p>							



事業名	上野国分尼寺跡範囲確認調査事業（取組5-3）						
事業の目的	上野国分尼寺跡の寺域範囲や施設配置等を調査することにより、国分尼寺の史跡としての価値を高めるとともに、国分尼寺の重要性等について周知を図る。						
実施状況	<p>5年目（全14年）の調査となった令和2年度は450㎡を調査し、金堂部分及び東面回廊の確認を主目的とした。</p> <p>金堂部分では、その規模が判明し、南北20m、東西28mの建物となることがわかった。また建物基壇を飾る凝灰岩切石列が一部残存していた。</p> <p>東面回廊では柱列の礎石が5か所ではほぼ原位置で残存していた。</p> <p>調査成果はかみつけの里博物館にて展示会を開催し、周知をした。</p> <p>◆事業進捗率（令和2年度）</p> <table border="1" data-bbox="384 1032 887 1133"> <thead> <tr> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>通算実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>14%</td> <td>14%</td> <td>45%</td> </tr> </tbody> </table>	目標	実績	通算実績	14%	14%	45%
目標	実績	通算実績					
14%	14%	45%					
評価検証	<p>寺院の中核施設である金堂の規模が判明し、寺院の内容がおおむね判明した。金堂は基壇に凝灰岩で飾り付けをする荘厳化が図られていることがわかった。</p> <p>また東面回廊の礎石がほぼ原位置で確認されたことから、遺跡が良好に残存していると考えられる。</p> <p>本年度の調査成果は、新型コロナウイルス感染拡大防止を考慮して現地説明会の代わりにかみつけの里博物館で展示会を開催し、マスコミにも取り上げられたため、来場者は昨年度の現地説明会よりも多い約250人に上った。</p>						
今後の方針	<p>遺跡の内容が明らかとなり、その範囲が確定した。今後はこれまでの調査成果をまとめて総括報告書刊行を目指し、遺跡の価値付けを行う。</p> <p>また、遺跡に付随する施設を探るために発掘調査を継続する。</p>						




金堂基壇の凝灰岩切石



東面回廊礎石出土状況

事業名	文化財調査事業（取組 5-5・5-6）										
事業の目的	文化財の把握・保護に取り組むため、指定文化財の所在調査や未指定文化財等の詳細調査、指定文化財の修理や案内板等の設置を行う。										
実施状況	<p>指定文化財所在確認調査や建造物調査を実施した。 国指定重要文化財榛名神社や市指定文化財の保存修理を実施した。 指定文化財の説明板を設置し文化財の普及に努めた。</p> <table border="1" data-bbox="373 537 995 784"> <thead> <tr> <th>事業の内容</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>文化財所在確認調査数</td> <td>86 件</td> </tr> <tr> <td>建造物調査</td> <td>1 件</td> </tr> <tr> <td>文化財修理件数</td> <td>2 件</td> </tr> <tr> <td>指定文化財説明板設置件数</td> <td>2 件</td> </tr> </tbody> </table> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div data-bbox="395 844 812 1155" style="text-align: center;">  <p>榛名神社国祖社及び額殿修理状況</p> </div> <div data-bbox="914 844 1331 1155" style="text-align: center;">  <p>市指定重要文化財看板交換</p> </div> </div>	事業の内容	件数	文化財所在確認調査数	86 件	建造物調査	1 件	文化財修理件数	2 件	指定文化財説明板設置件数	2 件
事業の内容	件数										
文化財所在確認調査数	86 件										
建造物調査	1 件										
文化財修理件数	2 件										
指定文化財説明板設置件数	2 件										
評価検証	<p>市内指定文化財の所在確認調査の継続実施や建造物調査を行い、文化財の保存管理状況などを確認し、課題等を把握することができた。 また、指定文化財の説明板を設置し、文化財の活用に向けた成果を上げることができた。</p>										
今後の方針	今後の文化財指定・保護の資料とするため、各種文化財の調査事業の充実を図る。										

事業名	歴史民俗資料館運営事業（取組 5-7・5-8）																																													
事業の目的	昔の人の生活文化を知り市民生活の推移を理解していくため、歴史民俗資料の収集や企画展の開催、体験的な学習活動を実施する。																																													
実施状況	<p>○歴史民俗資料館</p> <table border="1" data-bbox="373 394 1442 591"> <thead> <tr> <th colspan="3">事業の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>企画展「国登録有形文化財 旧群南村役場庁舎 ー高崎市歴史民俗資料館のもう一つの顔ー」</td> <td>令和 2. 10. 3～11. 1</td> <td>入館者 1,057 人</td> </tr> <tr> <td colspan="3">団体見学受入、小学校社会科見学受入、博物館実習生受入</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆歴史民俗資料館入館者数</p> <table border="1" data-bbox="373 636 919 842"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>7,000 人</td> <td>6,097 人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>6,500 人</td> <td>6,419 人</td> </tr> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>6,500 人</td> <td>4,340 人</td> </tr> </tbody> </table>  <p>企画展「国登録有形文化財 旧群南村役場庁舎」</p> <p>○榛名歴史民俗資料館</p> <table border="1" data-bbox="373 943 1442 1140"> <thead> <tr> <th colspan="3">事業の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>企画展「むかしの暮らし展」</td> <td>令和 2. 5. 1～3. 3. 31</td> <td>入館者 2,875 人</td> </tr> <tr> <td>榛名神社史跡めぐり</td> <td>中止</td> <td></td> </tr> <tr> <td>榛名の歴史を知る講演会</td> <td>令和 2. 11. 30</td> <td>参加者 18 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆榛名歴史民俗資料館入館者数</p> <table border="1" data-bbox="373 1189 919 1395"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>7,000 人</td> <td>7,715 人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>7,500 人</td> <td>10,471 人</td> </tr> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>8,000 人</td> <td>2,973 人</td> </tr> </tbody> </table>	事業の内容			企画展「国登録有形文化財 旧群南村役場庁舎 ー高崎市歴史民俗資料館のもう一つの顔ー」	令和 2. 10. 3～11. 1	入館者 1,057 人	団体見学受入、小学校社会科見学受入、博物館実習生受入			年度	目標	実績	平成 30 年度	7,000 人	6,097 人	令和元年度	6,500 人	6,419 人	令和 2 年度	6,500 人	4,340 人	事業の内容			企画展「むかしの暮らし展」	令和 2. 5. 1～3. 3. 31	入館者 2,875 人	榛名神社史跡めぐり	中止		榛名の歴史を知る講演会	令和 2. 11. 30	参加者 18 人	年度	目標	実績	平成 30 年度	7,000 人	7,715 人	令和元年度	7,500 人	10,471 人	令和 2 年度	8,000 人	2,973 人
事業の内容																																														
企画展「国登録有形文化財 旧群南村役場庁舎 ー高崎市歴史民俗資料館のもう一つの顔ー」	令和 2. 10. 3～11. 1	入館者 1,057 人																																												
団体見学受入、小学校社会科見学受入、博物館実習生受入																																														
年度	目標	実績																																												
平成 30 年度	7,000 人	6,097 人																																												
令和元年度	6,500 人	6,419 人																																												
令和 2 年度	6,500 人	4,340 人																																												
事業の内容																																														
企画展「むかしの暮らし展」	令和 2. 5. 1～3. 3. 31	入館者 2,875 人																																												
榛名神社史跡めぐり	中止																																													
榛名の歴史を知る講演会	令和 2. 11. 30	参加者 18 人																																												
年度	目標	実績																																												
平成 30 年度	7,000 人	7,715 人																																												
令和元年度	7,500 人	10,471 人																																												
令和 2 年度	8,000 人	2,973 人																																												
評価検証	<p>歴史民俗資料館は、感染症対策により従来の手法を変更するにあたって工夫を凝らした。特に小学校社会科見学の石臼や千歯扱き等の体験学習においては、資料館職員による実演と解説に変更する中、クイズの実施や気づいたことを発表する機会を与えるなど一方的な解説にならぬよう努めたことにより、小学生が興味深く集中して学習できる場を提供できた。また、登録有形文化財への登録を記念して開催した企画展においては、「建物全体が展示物」というコンセプトのもと、従来の企画展と異なり入館者を建物の外にまで誘導することにより密集を軽減することにつながった。</p> <p>榛名歴史民俗資料館は、群馬DCに協賛し入館無料期間は入館者が増加したものの、コロナ対策により4月から5月まで臨時休館となり、観光行事開催中止や榛名林間学校の施設利用が無かったこと等により、入館者が大幅に減となった。</p>																																													
今後の方針	<p>地元根ざした資料館として特色ある企画展等を開催し、入館者の増加と満足度向上に努めていく。</p>																																													

事業名	観音塚考古資料館運営事業（取組 5-9・5-10）																											
事業の目的	誰もが身近に考古学に親しめるよう、観音塚古墳出土品を中心とした企画展、体験学習の場を提供する。																											
実施状況	<table border="1" data-bbox="375 376 1420 766"> <thead> <tr> <th colspan="3">事業の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3">常設展 「観音塚古墳の世界」</td> </tr> <tr> <td>ミニ企画展 「渡来人がつくった土器～高崎市内出土の韓式系土器」</td> <td>令和 2. 5. 16～3. 2. 28</td> <td>入館者 5,390 人</td> </tr> <tr> <td>第 3 2 回企画展 「高崎市中原Ⅱ遺跡 1 号古墳出土埴輪の世界」</td> <td>令和 2. 11. 14～3. 2. 28</td> <td>入館者 1,817 人</td> </tr> <tr> <td colspan="3">団体見学受入、小学校社会科見学受入 体験学習は未実施としたが、周辺の高墳案内を強化した。</td> </tr> </tbody> </table> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div data-bbox="414 817 853 1142">  <p data-bbox="454 1153 821 1187">ミニ企画展「渡来人がつくった土器」</p> </div> <div data-bbox="933 817 1364 1142">  <p data-bbox="933 1153 1380 1187">企画展「中原Ⅱ遺跡 1 号古墳出土埴輪の世界」</p> </div> </div> <p data-bbox="359 1198 742 1232">◆観音塚考古資料館入館者数</p> <table border="1" data-bbox="375 1243 973 1444"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>9,000 人</td> <td>7,700 人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>8,000 人</td> <td>9,183 人</td> </tr> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>8,000 人</td> <td>5,932 人</td> </tr> </tbody> </table>	事業の内容			常設展 「観音塚古墳の世界」			ミニ企画展 「渡来人がつくった土器～高崎市内出土の韓式系土器」	令和 2. 5. 16～3. 2. 28	入館者 5,390 人	第 3 2 回企画展 「高崎市中原Ⅱ遺跡 1 号古墳出土埴輪の世界」	令和 2. 11. 14～3. 2. 28	入館者 1,817 人	団体見学受入、小学校社会科見学受入 体験学習は未実施としたが、周辺の高墳案内を強化した。			年度	目標	実績	平成 30 年度	9,000 人	7,700 人	令和元年度	8,000 人	9,183 人	令和 2 年度	8,000 人	5,932 人
事業の内容																												
常設展 「観音塚古墳の世界」																												
ミニ企画展 「渡来人がつくった土器～高崎市内出土の韓式系土器」	令和 2. 5. 16～3. 2. 28	入館者 5,390 人																										
第 3 2 回企画展 「高崎市中原Ⅱ遺跡 1 号古墳出土埴輪の世界」	令和 2. 11. 14～3. 2. 28	入館者 1,817 人																										
団体見学受入、小学校社会科見学受入 体験学習は未実施としたが、周辺の高墳案内を強化した。																												
年度	目標	実績																										
平成 30 年度	9,000 人	7,700 人																										
令和元年度	8,000 人	9,183 人																										
令和 2 年度	8,000 人	5,932 人																										
評価検証	<p>入館者数は前年度比約 35% 減となった。ただし、これは新型コロナウイルス感染拡大防止による小学校社会科見学の減少や体験学習未実施の影響が大きく、資料館への有料入館者数及び無料入館者数は前年度を上回っている。企画展やミニ企画展の開催期間を長くし、密にならずに見学できる場を提供するなど工夫したため、展示見学のニーズにはある程度応えることができたと考えられる。社会科見学の内容を見直し、新たな見学箇所を取り入れてクイズ等ワークシート活動を行うなど、児童の学習理解を深める工夫も行った。</p>																											
今後の方針	<p>学校教育・社会教育関連施設、文化振興・観光関連部局と連携し、教育施設として有効に活用されるよう努める。歴史愛好者のニーズに応えられるよう企画展等の充実を図るとともに、メディアへの情報提供など積極的な広報活動を心掛け、館の認知度を高める。</p>																											

事業名	かみつけの里博物館運営事業（取組 5-3・5-9・5-10）																																	
事業の目的	国指定史跡保渡田古墳群とその周辺遺跡にかかわる考古資料の収集・保存・調査研究を行うとともに、常設展示・各種展覧会や体験学習等を通して、学習の場を提供する。																																	
実施状況	<table border="1" data-bbox="367 392 1417 846"> <thead> <tr> <th colspan="3">事業の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>体験型企画展「わくわく博物館体験‘20」</td> <td>令和 2. 7. 23～11. 1</td> <td>入館者 21,227 人</td> </tr> <tr> <td>第 29 回特別展「祈りの器」</td> <td>令和 2. 12. 12～3. 3. 1</td> <td>入館者 4,039 人</td> </tr> <tr> <td>歴史講座「かみつけ塾」</td> <td>中止</td> <td></td> </tr> <tr> <td>石の勾玉作り</td> <td>中止</td> <td></td> </tr> <tr> <td>総合的学習の時間参加者</td> <td>上郊小学校 6 年生</td> <td>延 260 人</td> </tr> <tr> <td>第 11 回かみつけの里古墳祭り（実行委員会主催）</td> <td colspan="2">中止としたが、「王の儀式」の衣装展示などを行った。</td> </tr> </tbody> </table> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div data-bbox="424 904 826 1205" style="text-align: center;">  <p>企画展「わくわく博物館体験‘20」</p> </div> <div data-bbox="938 904 1337 1205" style="text-align: center;">  <p>第 29 回特別展「祈りの器」</p> </div> </div> <p style="margin-top: 10px;">◆かみつけの里博物館入館者数</p> <table border="1" data-bbox="392 1312 975 1503"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>42,000 人</td> <td>43,210 人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>40,000 人</td> <td>54,159 人</td> </tr> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>45,000 人</td> <td>36,592 人</td> </tr> </tbody> </table>	事業の内容			体験型企画展「わくわく博物館体験‘20」	令和 2. 7. 23～11. 1	入館者 21,227 人	第 29 回特別展「祈りの器」	令和 2. 12. 12～3. 3. 1	入館者 4,039 人	歴史講座「かみつけ塾」	中止		石の勾玉作り	中止		総合的学習の時間参加者	上郊小学校 6 年生	延 260 人	第 11 回かみつけの里古墳祭り（実行委員会主催）	中止としたが、「王の儀式」の衣装展示などを行った。		年度	目標	実績	平成 30 年度	42,000 人	43,210 人	令和元年度	40,000 人	54,159 人	令和 2 年度	45,000 人	36,592 人
事業の内容																																		
体験型企画展「わくわく博物館体験‘20」	令和 2. 7. 23～11. 1	入館者 21,227 人																																
第 29 回特別展「祈りの器」	令和 2. 12. 12～3. 3. 1	入館者 4,039 人																																
歴史講座「かみつけ塾」	中止																																	
石の勾玉作り	中止																																	
総合的学習の時間参加者	上郊小学校 6 年生	延 260 人																																
第 11 回かみつけの里古墳祭り（実行委員会主催）	中止としたが、「王の儀式」の衣装展示などを行った。																																	
年度	目標	実績																																
平成 30 年度	42,000 人	43,210 人																																
令和元年度	40,000 人	54,159 人																																
令和 2 年度	45,000 人	36,592 人																																
評価検証	<p>年間入館者数は前年比約 30% 減となった。4 月から 5 月に臨時休館したため、4 月から 6 月の入館者数は前年度より大きく落ち込んだが、7 月からは回復し、9 月から 12 月は前年度を上回った。</p> <p>感染症対策のため、体験事業は実施しなかったが、「見て考える」ゲームやクイズを中心とした「触らなくても楽しめる」子ども向け企画展を新たな試みとして実施した。また、古墳祭りは中止となったが、「王の儀式」の衣装の展示を行った。特別展では、古墳時代の須恵器をテーマに展示を行った。</p>																																	
今後の方針	<p>館蔵品について活用を図りながら適切な管理を行う。また、魅力ある展覧会を行うとともに、新たに作成した教職員用ガイドブックを使って楽しく学べる事業実施にも努める。歴史遺産を確実に継承していくため、市民との協働により事業を実施していく。</p>																																	

事業名	多胡碑記念館運営事業（取組 5-3・5-9・5-10）																																				
事業の目的	多胡碑を中心とした資料等を収集・展示し市民の理解を深めるとともに、山上碑・金井沢碑を含めユネスコ「世界の記憶」に登録された上野三碑の情報発信を図る。																																				
実施状況	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="3" style="text-align: center; background-color: #cccccc;">事業の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3">常設展示 国指定特別史跡多胡碑、山上碑、金井沢碑（上野三碑）のレプリカなど、石碑・石塔に関する資料や、古代多胡郡の出土遺物。中国の古代から中世の石刻の拓本等の展示</td> </tr> <tr> <td>上野三碑かるた原画・原書展</td> <td>令和 2. 5. 16～6. 28</td> <td>入館者 976 人</td> </tr> <tr> <td>こどものための上野三碑かるた展</td> <td>令和 2. 7. 23～9. 13</td> <td>入館者 1,166 人</td> </tr> <tr> <td>第 4 3 回企画展「金井沢碑の遺産～古代豪族と仏教～」</td> <td>令和 2. 10. 28～12. 6</td> <td>入館者 1,649 人</td> </tr> <tr> <td>第 2 4 回多胡碑記念館吉井こども書道展</td> <td>令和 3. 1. 23～2. 14</td> <td>入館者 744 人</td> </tr> <tr> <td>上野三碑一般公開</td> <td>中止</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="3">コウズケ 3 ピーズをさがせ(かるた版、屋外版)、上野三碑かるたクイズ</td> </tr> </tbody> </table> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>第 4 3 回企画展「金井沢碑の遺産」</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>こどものための上野三碑かるた展</p> </div> </div> <div style="margin-top: 20px;"> <p>◆多胡碑記念館入館者数</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">年度</th> <th style="width: 25%;">目標</th> <th style="width: 25%;">実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>20,000 人</td> <td>15,291 人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>20,000 人</td> <td>12,945 人</td> </tr> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>18,000 人</td> <td>7,703 人</td> </tr> </tbody> </table> </div>	事業の内容			常設展示 国指定特別史跡多胡碑、山上碑、金井沢碑（上野三碑）のレプリカなど、石碑・石塔に関する資料や、古代多胡郡の出土遺物。中国の古代から中世の石刻の拓本等の展示			上野三碑かるた原画・原書展	令和 2. 5. 16～6. 28	入館者 976 人	こどものための上野三碑かるた展	令和 2. 7. 23～9. 13	入館者 1,166 人	第 4 3 回企画展「金井沢碑の遺産～古代豪族と仏教～」	令和 2. 10. 28～12. 6	入館者 1,649 人	第 2 4 回多胡碑記念館吉井こども書道展	令和 3. 1. 23～2. 14	入館者 744 人	上野三碑一般公開	中止		コウズケ 3 ピーズをさがせ(かるた版、屋外版)、上野三碑かるたクイズ			年度	目標	実績	平成 30 年度	20,000 人	15,291 人	令和元年度	20,000 人	12,945 人	令和 2 年度	18,000 人	7,703 人
	事業の内容																																				
	常設展示 国指定特別史跡多胡碑、山上碑、金井沢碑（上野三碑）のレプリカなど、石碑・石塔に関する資料や、古代多胡郡の出土遺物。中国の古代から中世の石刻の拓本等の展示																																				
	上野三碑かるた原画・原書展	令和 2. 5. 16～6. 28	入館者 976 人																																		
	こどものための上野三碑かるた展	令和 2. 7. 23～9. 13	入館者 1,166 人																																		
	第 4 3 回企画展「金井沢碑の遺産～古代豪族と仏教～」	令和 2. 10. 28～12. 6	入館者 1,649 人																																		
	第 2 4 回多胡碑記念館吉井こども書道展	令和 3. 1. 23～2. 14	入館者 744 人																																		
	上野三碑一般公開	中止																																			
	コウズケ 3 ピーズをさがせ(かるた版、屋外版)、上野三碑かるたクイズ																																				
	年度	目標	実績																																		
平成 30 年度	20,000 人	15,291 人																																			
令和元年度	20,000 人	12,945 人																																			
令和 2 年度	18,000 人	7,703 人																																			

<p>評価検証</p>	<p>多胡碑だけでなく、上野三碑のガイダンス施設として、上野三碑のレプリカや関連資料、遺物などを常設展示し、上野三碑の研究や情報発信の場として、学校教育、生涯学習、学術及び文化の振興の場として活用されている。</p> <p>平成29年度の上野三碑のユネスコ「世界の記憶」登録後急増した来館者だが、その後2年は微増傾向、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、団体見学等が激減したため、大幅に減少した。</p> <p>コロナ禍でもわかりやすい展示や体験を心がけ、非接触型の体験や家庭でできる体験「おうちで拓本」などホームページでの情報発信を行った。</p> <p>施設面では文化庁補助金(文化施設の感染症防止対策事業)を受け、空調設備の改修を行った。</p>
<p>今後の方針</p>	<p>上野三碑見学の拠点施設として、上野三碑に関する展示の更なる充実に努め、引き続き学校教育、社会教育、生涯学習の場としての機能を充実させる。関係団体と連携し来館・来場者へ対応するとともに、情報発信等を図っていく。</p>

事業名	吉井郷土資料館運営事業（取組 5-3・5-7・5-9）																																							
事業の目的	地域の歴史・民俗資料の収集・保管及び調査・研究を行い、それに伴う講演会、体験学習等を行うことで市民が歴史的遺産に親しみ、郷土愛を育む場や機会を提供する。																																							
実施状況	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="3" style="text-align: center; background-color: #cccccc;">事業の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3">常設展示</td> </tr> <tr> <td colspan="3">1 階展示室：吉井藩主家資料、吉井の火打金、牛伏砂岩切り出し資料</td> </tr> <tr> <td colspan="3">2 階展示室：地史、自然、考古、原始古代、中世、近世、近現代、民俗関係資料、多胡碑レプリカ</td> </tr> <tr> <td colspan="3">第 4 6 回企画展「古代と今をつなぐ牛伏の嶺」</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: right;">令和 2. 11. 5～12. 25</td> <td style="text-align: right;">入館者 396 人</td> </tr> <tr> <td colspan="3">夏休み体験学習 まが玉づくり、馬庭念流体験、布ぞうりづくり</td> </tr> <tr> <td colspan="3">中止としたが、小学校に火打金セットを貸し出しするなど、体験学習を行った。</td> </tr> <tr> <td colspan="3">講演会「古文書や絵図からわかる牛伏山」 令和 2. 11. 14 参加者 10 人</td> </tr> </tbody> </table> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>展示解説の様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>講演会の様子</p> </div> </div> <p>◆吉井郷土資料館入館者数</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 33%;">年度</th> <th style="width: 33%;">目標</th> <th style="width: 33%;">実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>3,800 人</td> <td>2,885 人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>3,800 人</td> <td>3,058 人</td> </tr> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td>3,300 人</td> <td>1,894 人</td> </tr> </tbody> </table>	事業の内容			常設展示			1 階展示室：吉井藩主家資料、吉井の火打金、牛伏砂岩切り出し資料			2 階展示室：地史、自然、考古、原始古代、中世、近世、近現代、民俗関係資料、多胡碑レプリカ			第 4 6 回企画展「古代と今をつなぐ牛伏の嶺」			令和 2. 11. 5～12. 25		入館者 396 人	夏休み体験学習 まが玉づくり、馬庭念流体験、布ぞうりづくり			中止としたが、小学校に火打金セットを貸し出しするなど、体験学習を行った。			講演会「古文書や絵図からわかる牛伏山」 令和 2. 11. 14 参加者 10 人			年度	目標	実績	平成 30 年度	3,800 人	2,885 人	令和元年度	3,800 人	3,058 人	令和 2 年度	3,300 人	1,894 人
事業の内容																																								
常設展示																																								
1 階展示室：吉井藩主家資料、吉井の火打金、牛伏砂岩切り出し資料																																								
2 階展示室：地史、自然、考古、原始古代、中世、近世、近現代、民俗関係資料、多胡碑レプリカ																																								
第 4 6 回企画展「古代と今をつなぐ牛伏の嶺」																																								
令和 2. 11. 5～12. 25		入館者 396 人																																						
夏休み体験学習 まが玉づくり、馬庭念流体験、布ぞうりづくり																																								
中止としたが、小学校に火打金セットを貸し出しするなど、体験学習を行った。																																								
講演会「古文書や絵図からわかる牛伏山」 令和 2. 11. 14 参加者 10 人																																								
年度	目標	実績																																						
平成 30 年度	3,800 人	2,885 人																																						
令和元年度	3,800 人	3,058 人																																						
令和 2 年度	3,300 人	1,894 人																																						
評価検証	年間入館者数は前年比約 40% 減となった。「まが玉づくり」、「布ぞうりづくり」と群馬県指定重要無形文化財「馬庭念流」の夏休み体験学習も、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。企画展は、「古代と今をつなぐ牛伏の嶺」と題して、古代から現代までの牛伏山とこの地で生活する人々とのかかわりについて紹介した。また、今年度は関連行事として講演会を開催したところ、受付初日で募集定員に達した。																																							
今後の方針	地域に根ざした資料館として、収蔵品を整理、活用を図りながら特色ある事業を実施し、更に地域住民に愛される活動を続けていく。																																							

事業名	埋蔵文化財センター整備事業（取組 5-10）
事業の目的	市町村合併により大幅に増加する出土品等の資料を集約して体系的に保存・管理し、生涯学習や学校教育と連携した活用を推進するための拠点施設として、埋蔵文化財センターの整備を行う。
実施状況	収蔵量や保管状態の再確認を行った結果、増加する出土品に対応するため、新たな保管施設が必要であることが確認された。
評価検証	収蔵すべき資料の量を把握し、各地の先進事例について情報収集してきたが、今後は既存の市有施設を改修して活用できないか検討していく。
今後の方針	活用可能な既存の市有施設情報の収集を継続していく。

V 点検・評価結果に対する学識経験者の意見

1 はじめに

高崎市の教育行政は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正による新たな教育委員会制度のもとで、市長と教育委員会で構成する総合教育会議が定めた「高崎市教育大綱」により総合的な教育施策の目的や方針を掲げている。「高崎市教育大綱」に掲げる施策の視点に基づき、年度ごとに「高崎市教育行政方針」により具体的な事業内容や目標を設定し、「点検・評価報告書」により成果を確認し、評価を行っている。

「高崎市教育大綱」による新たな事業体系は、今回の点検・評価対象としている令和2年度事業で3年目を迎えた。この間、点検・評価報告を通して、成果を可視化するための指標の設定や再検討が行われており、事業目的の再構築や実施方法の改善につなげることで、新教育委員会制度が求める教育行政における責任体制の明確化、迅速な危機管理体制の構築、地域の民意を代表する首長との連携強化をより一層確実なものとしていく必要がある。

一方で、令和2年度事業については、新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの事業において、「令和2年度教育行政方針」で定めた内容について中止や変更を余儀なくされていることを考慮する必要がある。しかしながらコロナ禍においても各事業で工夫した取組が行われており、その点にも着目しながら、以下において各施策の視点ごとに点検・評価についての検証を行うものとする。

2 5つの施策の成果と課題について

★施策の視点1 生涯学び続け、心豊かにたくましく生きぬく子どもの育成

幼・保・小連携推進事業では、公開保育・授業や保育・授業研究会、実技研修会、教育講演会等の実施は見送られたが、年度末の小学1年生への引継ぎ資料などを工夫し情報交換をきめ細かに行うなど連携を図り、子どもたちが幼稚園や保育所（園）、認定こども園から小学校への円滑な移行ができるようにするという事業の目的に沿った活動を行うことができたと考える。幼稚園・保育所（園）・認定こども園・小学校の連携は、今日的教育課題であり重要性も高いことから、新しい形式の研修会の実施も含め、今後も職員が組織の枠を超えて互いに理解し合う機会を大切にし、連携がより一層深まることを期待する。

子どもの学ぶ意欲向上事業では、各学校で「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善を行っており、その結果、授業がわかると答えた児童生徒が8割以上いる学校の割合は99%に達している。各学校で感染症対策と教育活動の両立を図り、教科指導助手を活用した少人数指導やチームティーチングなど指導形態の工夫やきめ細かな指導の充実に努めた結果であると考えられる。今後も多くの子どもが授業がわかると答えられるよう、引き続き授業改善を進めるとともに、1人1台端末の有効活用を推進し、子どもの学ぶ意欲向上につなげてほしい。

児童生徒の学力補充事業では、「イングリッシュフェスタ」、「イングリッシュサマースクール」、「イングリッシュキャンプ」の実施は見送られたが、「チャレンジ・ザ・日本ジュニア数学オリンピック」については目標に近い参加者数となった。数学専門講師を活用し、生徒の意欲を引き出す質の高い講座を開催することで、コロナ禍においても例年並みの参加者数につながっていると考えられる。今後も、事業形態や内容の見直し・改善を更に進め、今まで以上に魅力ある事業となることを期待する。

英語教育指導事業では、年度当初はALTが全校配置されていたが、9月に来日予定だったJETプログラムによるALT13名の来日が見送られたため、複数校掛け持ち等配置の工夫を行い、市内

全ての児童生徒が、担任や英語担当教諭とALTとのチームティーチングによる授業を受けることができる体制を維持することができた。また、ALTの研修を充実させることで、ALTの指導力を向上させ、実践的コミュニケーション能力を育成する質の高い授業づくりにつなげることができたと考えられる。今後も、英語への興味や関心を高め、英語学習に意欲的に取り組む児童生徒を育成するために、ALTの授業研修を通して小中学校の連携を強化し、9年間の英語教育指導が円滑に行われるよう、さらなる英語教育の充実に努められたい。

高崎市学力アップ推進事業では、全ての小中学校区で地域運営委員会を開催し、感染症対策を徹底しながら学習会（学力アップ大作戦）を実施することができた。コロナの影響により回数が減り、参加者数やボランティア人数の減少となったが、内容を工夫しながら全校で実施できたことは評価に値する。また、各校の地域運営委員会の代表者が参加する全体会は実施できなかったが、教育委員会が各地域運営委員会の取組状況を把握し、支援につなげたことも評価できる。中学生休日学習相談ステーションについては、コロナ禍においても参加人数が微増し、成果が認められる。参加しやすい学習形態であり、継続して参加している生徒が一定数いることが要因と考えられる。今後も、児童生徒の確かな学力の向上に向けて、地域や家庭との連携を更に進め、地域の教育力を生かした学力向上の取組を推進してほしい。

いじめ防止対策事業では、平成24年から教育委員会がリードするいじめ防止の取組が市内全校に浸透し、コロナ禍においても充実した取組が行われた。教育委員会が実施している担当教諭研修や子どもたちの会議や研修会は、市全体のいじめ防止に向けた取組を牽引しており、学校内にいじめ防止の担当を置くことで、学校のいじめ防止体制を構築することができ、組織的な取組につながっていると考えられる。オンラインで実施した教員と中学生の研修では、テーマを「コロナいじめ防止」で同一にし、いじめ防止に対して教師と児童生徒が同じ目線で考えられるようにしており、学校が一丸となっていじめ防止に向けた取組を推進している点は大きいと評価できる。今後も、各校のいじめ防止の取組の充実に資するよう、いじめ防止に向けた取組を更に発展させてほしい。

やるベンチャーウィーク推進事業では、コロナの影響により各事業所での受入が難しいことなどから、令和2年度の事業所での活動は見送ったが、代わりに外部講師による講演会等各校で工夫した取組が展開された。今後も生徒の関心に応じた体験活動となるよう、実施期間の弾力的な運用も含め、事業の内容について検討するとともに、引き続き地域や事業所と連携し、生きる力、豊かな心の育成を図られたい。

「気になる子」対策事業では、補助金や人的配置を継続し、私立幼稚園、公立幼稚園において特別な支援を必要とする「気になる子」への支援を充実させている。また、近年は、特別な支援を必要とする子どもの実態が多様化していることから、一人ひとりのニーズに応じた支援をきめ細かく行っていくために、引き続き実情に応じた事業の継続を期待したい。

読書活動推進事業では、各校が学校図書館指導員を活用し、図書館の環境整備や図書の貸出しをはじめ、子どもの読書意欲を高める取組や授業での連携等、学校図書館の活用を進めており、学校図書館の「読書センター」、「学習・情報センター」としての機能の充実が認められる。授業での連携では、国語や総合的な学習の時間を中心に教師と学校図書館指導員によるチームティーチングが行われるようになってきているが、学校図書館指導員の研修を充実させることによって「学習・情報センター」としてのさらなる機能向上を目指してほしい。

学校・家庭・地域連携事業では、公募により評議員の人選を行った学校園数が前年度より増えている。コロナの影響により、例年と比べて学校評議員会の実施割合は減少したが、議案を精選するなどの

工夫を行うことで、限られた機会を生かして質の高い学校評議員会を実施することができている。地域に開かれた学校づくりに向けて、引き続き広く意見を聞く環境づくりを推進し、学校・家庭・地域のより一層の連携を図りたい。

学校教育力向上対策事業では、市内全教職員を対象に人権教育講演会を実施する予定であったが、コロナ拡大防止の観点から令和2年度は見送りとなった。いじめ問題やジェンダーに関する問題等を含め、学校現場における人権教育は重要性を一層増している。教職員の質的向上に資するよう、今後も研修内容の充実を図り、より一層効果的な事業となることを期待する。

通級指導教室推進事業では、改善により退級した児童生徒が53人で昨年度と比べて減少したが、4、5月の休校や感染症対策によりマスクを着用しての発音指導等が影響していると考えられる。指導については、障害の軽減・改善に向けた専門的な指導が各教室で行われており、中学生についても堤ヶ岡教室の増設により、ニーズに応じた個別指導が提供できるようになっている。今後は、通級による指導の成果を通常の学級における授業や生活において更に発揮できるよう、通級担当者と学級担任のより一層の連携を図りたい。

教育調査研究・研修事業では、コロナ禍においても、受講者が充実した研修であると回答する割合が高い。従来のセンター研修に加え、オンラインによる研修を取り入れるなど、受講方法を工夫して行った結果だと考える。1人1台端末が整備された環境の中、今後も受講者のニーズをとらえた研修講座を実施し、事業の充実を図っていく必要がある。

適応指導教室推進事業では、適応指導教室に通室した児童生徒80人のうち、6人が週一日以上学校へ登校できたことから、事業は一定の成果を上げていると認められる。今後も、不登校に悩む児童生徒の社会的自立や学校復帰を目指した教育支援センターとしての取組を充実させていく必要がある。

学力向上推進事業では、確かな学力の確立のために、少人数学級による授業やシラバスに沿った授業を行うとともに、発展的・対話的な深い学びの実現に向けて、概ね主体的・協働的な学習を取り入れていたと認められる。今後も、授業改善を重ね、生徒の興味・関心を一層高めるとともに、発表する場面等での表現力向上に努めることにより、「主体的・対話的で深い学び」の一層の育成を期待する。

キャリア教育推進事業では、イスタンブール日本国総領事館とのオンライン交流、高大コラボゼミでの「新型コロナウイルス感染症拡大による経済活動への影響」という時事的課題への取組など、新規内容を実施し、成果を上げていると認められる。

国際教育推進事業では、コロナの影響により、英語検定での試験日程延長や試験会場調整等で生徒が複数回受験しにくい状況が生じた中で、一定の成果を収めている。また、海外での対面交流を実施できなかったが、その代替としてインターネットを活用するなど、事業内容の工夫が認められる。

★施策の視点2 子どもたちの心身の健康と体力の向上

児童生徒等健康管理対策事業では、感染症対策を講じながら、定期健康診断を12月末までに全ての学校で終了し、学校保健統計も作成できた。また、小学1年生を対象とした巡回歯科指導では、実施時期を延長し、全ての学校で実施できたことは評価できる。

学校保健充実事業では、講演会等が中止となる学校が多かったが、養護教諭等による授業やDVDを活用した授業などの工夫もみられ、事業の継続に努めたことは評価できる。引き続き、希望する学校ができる限り受講できるよう、事業の更なる発展を期待する。

部活動充実事業では、各中学校に部活動指導員を配置することで、教職員の心理的負担や勤務時間の軽減、生徒の技能の向上やけがの防止が図られていると考えられる。地域人材を各校の部活動運営

の中へ位置づけることで、持続可能な部活動となることや、保護者や生徒の実情に合った活動となるため、更に多くの地域人材が部活動運営に携わることを期待する。

学校体育充実事業では、休校中や仲間との交流等が制限される中で、動画配信を通して運動の機会を提供したことで、家庭と連携し生涯にわたって運動に親しむ心を養うことができたことは評価できる。体育の授業改善では、自己の課題を明確にすることで学習意欲の向上、課題解決能力の育成等により、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の育成が図られている。各校では、新体力テストを利用した学校課題の明確化、全校体制による計画的・組織的な取組を検討していく必要があると考える。

交通教室事業では、自転車事故件数が目標値を下回っていることは評価できるが、前年度比で10件の増加が見られる。引き続き和田橋交通公園での交通安全教室を中心に、小学生における自転車交通事故ゼロを目指して、地域の実情に応じた交通安全教室が実施できるよう、関係団体と協力した事業を推進していくことを期待する。

給食充実事業では、地場農作物の使用率が目標を下回る状態が続いており、生産者や関連機関と生育状況や使用時期等の情報を収集し、使用促進に向けた工夫を続けることで、児童生徒が地元の農産物・農業への関心を高める機会の創出に努められたい。栄養教諭・栄養士の教室訪問による食指導回数は減少したが、引き続き、給食放送、一口メモ、給食だより等を活用し計画的に指導を実施し、食に関する指導を充実していけるよう期待する。

給食運営事業では、推定値による給食残渣量において幼稚園、小学校及び中学校の残渣は目標値より少なかった一方で、特別支援学校では目標値より多かった。献立の内容や使用する食材などの工夫により目標値の達成を目指し、今後とも食育を意識した取組を続けることを期待する。

小学生自然体験活動事業では、榛名林間学校榛名湖荘において、市内小学5年生が榛名湖周辺の自然に触れる自然体験活動を日帰りで行ったが、新たに「榛名湖散策」のプログラムを加え、今まで以上に榛名湖周辺の豊かな自然に触れ合うことができたことは、心身ともに健康な子どもの育成につながる取組であるとともに地域の自然を活用した教育として評価できる。今後とも、各学校の実情に応じた安全で質の高い自然体験活動を提供し、榛名地域の豊かな環境を理解する良い機会となるよう、一層の工夫・改善を行うことを期待する。

「健康教育」啓発事業では、事業内容の検討や精選など再検討を通じて、学校・家庭・地域が連携し効果的に事業目的の達成ができるよう、事業の充実を図られたい。

★施策の視点3 安全で多機能な教育環境づくりの推進

施設の整備については、箕輪小学校校舎改築工事が完了し、事業は計画どおりに実施されていると評価できる。安全で機能的な教育環境を創出するため、緊急性等を勘案して工事を行うとともに、優先順位を付けて予算を計画的に配分し、効果的に事業に取り組むことを期待する。

学校体育施設開放事業では、多くの市民が、身近にスポーツを親しむことができる場として利用し、人々の交流を促進することができた。市民がスポーツやレクリエーション活動を通じて、幸福で豊かな生活を営むことができるよう、引き続き事業の周知に努め安全管理の徹底に努められたい。

★施策の視点4 地域力を育む社会教育の充実

地区推進体制整備事業では、コロナの影響により生涯学習推進員が関わった地域活動の参加人数は前年度より減少したが、今後も積極的に活動に取組み、地域住民の生涯学習の活性化に努められたい。

公民館運営事業では、公民館利用者、公民館主催事業への参加者は、コロナの影響により前年度より大きく減少したが、感染症対策を講じながら公民館活動を継続し、インターネットを活用した学習機会の提供にも取り組んでいる。引き続き住民が地域力を育むことができるよう、住民が集い活動する地域の拠点としての役割を果たし、地域の特色を生かした事業により一層取り組むことを期待する。

生涯学習推進事業では、生涯学習フェスティバルの入場者を会場の収容定員の50%以下に制限するなど感染症対策を講じて開催し、市民の学習支援に努められた。参加者数が減少した生涯学習推進研究事業と出前講座、閲覧回数が目標値に届かなかったまなびネットたかさきについては、コロナ拡大防止のための事業中止や活動自粛等によるものと認められる。引き続き事業を推進し、市民の活動支援や情報の発信に努められたい。地域人材登録活用事業はコロナの影響により受講者数が減少したが、引き続き市民の多様なニーズに応え積極的な学習の支援に努められたい。高崎学検定事業は、感染症対策を講じて安心して受検できる環境を整え、各メディアによる周知活動を行ったことにより、受検者数、新規受検者割合が微かな減少にとどまっている。今後も市民主体の生涯学習を推進するために、市民の学習の契機となるような取組を期待する。

人権文化創造事業では、コロナの影響によりそれぞれの事業において参加者数の目標値から減少となったが、事業内容等の工夫により参加者の満足度の高さを維持することができている。世代間の交流を図るために今後も引き続き事業の手法や周知の仕方について調査、研究するよう努められたい。

家庭教育支援事業では、昨年度に比べるとコロナの影響により参加者数の実績が減少したが、参加者の満足度を見ると講座内容は適切であると認められる。今後もアンケートを通して市民の声を聞き、ニーズに合った事業となるよう継続して努められたい。

視聴覚教育事業では、コロナ終息後に利用再開する団体への貸出しにおいて不備のない映写を行うために点検し、メンテナンスすることが重要である。利用者が活用しやすい環境づくりを保つとともに、16ミリフィルムやDVDの内容について「まなびネットたかさき」への掲載を充実させることで市民への周知を図り、利用者の増加につながることを期待する。今後も視聴覚資料の充実やフィルムの劣化防止に努められたい。

公民館整備事業・社会教育施設改修事業では、既存施設の老朽化対策として修繕（補修）工事を行った。施設の安全性・利便性を確保するため、計画的な補修と適切な管理に努められたい。

市民活動センター管理運営事業では、コロナの影響で団体が利用を自粛したことにより、利用者数が減少した。今後も引き続きコロナ拡大防止策を講じながら、新規団体登録の推進など施設の有効活用につながるよう取り組まれたい。

図書館管理運営事業では、個人貸出点数及び貸出人数は、臨時休館に伴う影響が大きく認められたものの、新たに視覚障害者情報総合ネットワーク「サピエ」へ加入したことで、視覚に障害がある人や読書が難しい人に対するサービスの充実が図られている。今後も所蔵資料やサービスの充実に努め、市民の生涯学習を支援し、市民の生活に寄り添い役立つ図書館づくりを目指してもらいたい。

「市民生活に寄り添う図書館づくり」では、レファレンスサービスに力を入れ、国立国会図書館が運用するレファレンス協同データベースへの積極的な登録・公開がなされている。更なるレファレンスサービスの拡充が図られることを期待する。

子どもの読書活動の推進及び関係諸機関との連携事業は、学校との連携パックを充実させるなど資料の利用促進が図られている。今後も、家庭、地域、学校、図書館等が連携・協力して読書活動の推進に努められたい。

★施策の視点5 歴史や文化の薫り高い文化環境づくりの推進

文化財保存活用地域計画の策定・推進事業については、計画策定に向けて情報収集や資料整理作業を着実に進め、より一層市民の文化財への関心が高まる取組になることを期待する。

日高遺跡保存整備事業では、JR上越線南側区域の整備を着実に進め、平成27年度より供用を開始した区域の更なる活用を通して、より高い関心を得られるよう検討を図られたい。

箕輪城跡保存整備事業では、本丸の整備工事が着実に進められており、市民の関心が高まっている。引き続き計画的に整備事業を進めるよう努められたい。

北谷遺跡保存整備事業では、公有地化や管理が着実に推進されており、今後も史跡指定地の保存管理と公有地化を進め、市民の関心に応える事業となるよう努められたい。

山名古墳群保存整備事業では、着実に保存管理が進められている。今後は上野三碑等近隣の文化財の周知を図り、多様なニーズに応えるべく環境整備に努められたい。

「世界の記憶 上野三碑」関連事業では、ユネスコ「世界の記憶」登録以前と比べ見学者数の増加を維持してきたが、令和2年度はコロナの影響により大幅に減少した。上野三碑かるたの配付や読み上げアプリの作成など、在宅で文化財に慣れ親しむことができる事業を展開しており、今後も臨機応変な対応に努められたい。

埋蔵文化財調査事業及び文化財保存活用事業は、コロナ拡大防止のため大幅な減少となったが、動画公開など在宅でも文化財に親しむことができる代替事業を実施した。これからも事業内容や企画をより一層充実させることで、市民の文化財に対する関心の高まりに寄与する事業となるよう努められたい。

多胡碑周辺重要遺跡範囲確認調査事業及び上野国分尼寺跡範囲確認調査事業では、重要な発見もあり、成果を上げていと認められる。史跡としての価値を高めるとともに、調査結果を広く公開できるよう努められたい。

文化財調査事業では、調査件数が増加しており、今後も継続して指定文化財の適切な管理と、未指定文化財の詳細な調査を進められたい。

歴史民俗資料館運営事業、観音塚考古資料館運営事業、かみつけの里博物館運営事業、多胡碑記念館運営事業及び吉井郷土資料館運営事業では、コロナの影響により、入館者数が大幅な減少となったが、非接触型の体験やホームページでの情報発信、企画展開催期間の延長などの対策を実施した。コロナ禍においても、引き続き入館者の関心に応える取組を積極的に展開し、より一層充実した館の運営に努められたい。

埋蔵文化財センター整備事業では、貴重な文化財を体系的に保存管理するための検討に努められたい。

3 おわりに

冒頭ですでに述べたように、新型コロナウイルス感染症の拡大は、令和2年度の教育行政に甚大な影響を与えた。これほどの甚大な影響は、「令和2年度教育行政方針」ではもちろん想定されておらず、そしてまた、今後の動向も予測できない現況にある。コロナ禍において、多くの事業がその実施にあたってさまざまな大きな制約を受けただけでなく、中止せざるを得なかったものも数多く見られたので、従来のように当初設定された目標を基準として個々の事業の達成度を評価することはあまり意味がないであろう。まずは、学校・社会の双方における学びを止めさせないために、各方面の関係者の尽力により、さまざまな工夫を凝らした取組がなされたこと、このことに対して心より敬意を表したい。

基本的に全ての事業が、高崎市の有する物的・人的リソースを活用して、市民と市民が世代を超えてつながることで成り立っており、コロナ禍におけるネットワークの寸断は、市民をつなぐ上で対面のコミュニケーションの大切さを改めて認識する機会となった。当初設定された目標値を下回った部分は、ある意味、被災に伴う社会的損失の指標ともいえるかもしれず、これまで築いてきたものを失うことにより痛みを伴うことも多々あったと思われる。

とはいえ、失われた／失われそうなものを取り戻すべく、多くの関係者が関わってさまざまな代替策が考案されることは、新たなネットワークが構築されていく機会でもある。代替策のなかには、危機的状況への一時的な対応にとどまらず、コロナ終息後の社会にとっても不可欠のものとして位置づけられるようなものがある。もちろん、コロナの終息が見通せない現況ではあるが、このような性格を持つものとして、子どもの学ぶ意欲向上事業において取り組まれたGIGAスクール研究会の立ち上げ、授業における1人1台端末の有効活用に向けた協議の開始は重要な意義を持つであろう。対面授業の単なる一時的な代替策としてのオンライン授業のための基盤整備にとどまらずに、今後、事業の本来の目的をより高い次元で達成できるような取組になることを期待したい。また、これを機に、物的なネットワーク基盤の整備拡充とともに、教育現場と研究会との間の双方向のコミュニケーション、教育現場における教員相互の情報交換のためのネットワークが刷新されていくことを期待したい。

ところで、以上のように、コロナ対応に忙殺される中にありながらも、着実に進捗を見せた3つの事業に改めて注目しておきたい。第1に、図書館管理運営事業における視覚障害者情報総合ネットワーク「サピエ」への加入とレファレンス事例のデータベース化は、有益な情報への市民のアクセスを改善するものであり、図書館に蓄積された豊富な情報を市民が利活用できるような環境の整備に今後も継続して取り組まれることを期待したい。

第2に、多胡碑周辺重要遺跡範囲確認調査事業と上野国分尼寺跡範囲確認調査事業においては、遺跡の範囲の広がり新たに明らかにされ、マスコミにも取り上げられたことがあげられよう。史跡の価値は、あくまで調査研究の成果として見定められるものであり、それが基礎となって社会からの関心を集めた点は高く評価できる。他の遺跡も含めて、今後の調査研究の着実な進展を期待したい。

第3に、平成30年度以降新たに加えられた事業項目である部活動充実事業が、3年を経過し、部活動指導員の配置と運動部への外部指導協力者派遣により、部活動の質的向上と教職員の負担軽減が着実に推進されていることにも、改めて注目しておきたい。

いずれにせよ、コロナ禍においては、さまざまな事業の実施内容と計画の見直しが迫られており、さまざまな観点から目的と手段の組み換えが必要とされているが、これは試行錯誤の連続するプロセスであろう。共有できる関心・課題はとても明確なので、解決に向けて関係者の間でさまざまな意見やアイデアを交換し、新たなネットワークを構築する機会でもある。目の前の課題への対応に迫られる日々がしばらく続きそうではあるが、そうした中であっても、長期的な観点から生かせる知恵を拾い上げて蓄積し、集団的知性に磨きをかけていく営みが継続されることを期待したい。

公立大学法人高崎経済大学
経済学部教授 唐澤 達之

VI 点検・評価結果を踏まえた教育委員会の対応・方向性

本報告書に記載した点検・評価は、令和2年度の教育行政方針に掲げられた取組について実施したもので、5つの施策の視点に基づく事業の実施状況等についての評価検証を行いました。

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大が事業実施に大きな影響を及ぼし、実施内容の見直しや代替策による実施を余儀なくされました。しかしながら、さまざまな発想の転換や工夫を凝らすことで、可能な限り事業の主旨に近づくことを目指し、各事業に取り組みました。

また、コロナ禍においても、事業目的に向けて前進できた事業もありました。図書館利用環境の充実に向けた視覚障害者情報総合ネットワーク「サピエ」への加入など、新たな取組を進めることができました。一方で、遺跡調査が大きく進捗した多胡碑周辺重要遺跡範囲確認調査事業と上野国分尼寺跡範囲確認調査事業、部活動の質的向上と教職員の負担軽減を進めた部活動充実事業など、継続して取り組んできた結果が成果につながったものもありました。

今後については、従前の実施内容とは異なる対応が必要な事業もありますが、実施方法に創意工夫を凝らすことを通じて、より一層事業の本質に近づける機会として捉えることもできます。学識経験者からの提言のとおり、一時的な対応にとどまらず、長期的な観点へとつながる知恵の蓄積に努めることで、本市が基本方針の一つに掲げる「教育と人づくり」の実現と更なる教育行政の充実に向けた事業実施を進めていきます。

生涯学習都市宣言

わたくしたち高崎市民は
生きとし生けるものが共に生き
自然と人間と経済の調和する
文化の香り高い
豊かなまちづくりをめざします

ひとりひとりが
自らの人間性を高めるため
生きがいのある人生を求めため
あすをひらく意欲に燃えて
生涯学び続けるよう努めます

ここに
いつでも どこでも だれでも
たのしく学べるまち
「生涯学習都市高崎」を宣言します

平成7年12月2日制定

人権尊重都市宣言

人はだれでも、一人ひとりかけがえのない存在として尊重され、豊かに、健康で幸せな生活を営む権利をもっています。この基本的人権は、いかなる理由があっても侵害されるものではありません。

わが国では、日本国憲法に明示されている基本的人権の確立のため、人権擁護のさまざまな努力が続けられてきました。いまや、地球規模の交流時代の中で、人権の尊重がいつそう強い社会的要請にまで高まっています。

私たちは、すべての市民の人権を等しく保障するために平和及び人権尊重について、共に学び行動し、明るい民主的社会の実現を図る必要があります。

ここに、私たち市民は、憲法のかかげる平和及び人権の確立とその擁護のための活動を推進し、人と人とのふれあいを大切にし、いたわりの心がゆきわたる市民生活の充実した高崎市を築くために、「人権尊重都市」を宣言します。

平成7年11月30日制定

核兵器廃絶平和都市宣言

私たち高崎市民は、ふるさと高崎を愛し、しあわせがみんなに広がるまちづくりを、未来への道しるべとしています。

しかし、いま私たちの生活に大きな暗い影をおとしているものがあります。それは人類を滅亡におとし入れる核兵器です。この核兵器の廃絶こそ、私たち高崎市民の願いです。

私たちは、平和を愛するすべての国の人々とともに、真の永久平和を実現することを決意し、ここに「核兵器廃絶平和都市」を宣言します。

昭和61年3月5日制定

令和3年度(2021年度)
教育委員会の点検・評価報告書

令和2年度(2020年度)事業対象

発行 高崎市教育委員会
370-8501 高崎市高松町35番地1
電話 027-321-1291
FAX 027-328-2261
E-mail ky-soumu@city.takasaki.gunma.jp
編集 高崎市教育委員会事務局